

発掘された松本2012

松本市遺跡発掘報告会



松本城大手門枳形跡出土の軒丸瓦(水野氏家紋の「丸に立沢瀉」)

開催：平成25年2月16日(土)
時間：午後1時～4時
会場：松本市時計博物館4階本町ホール

松本市教育委員会

発掘された松本 2012

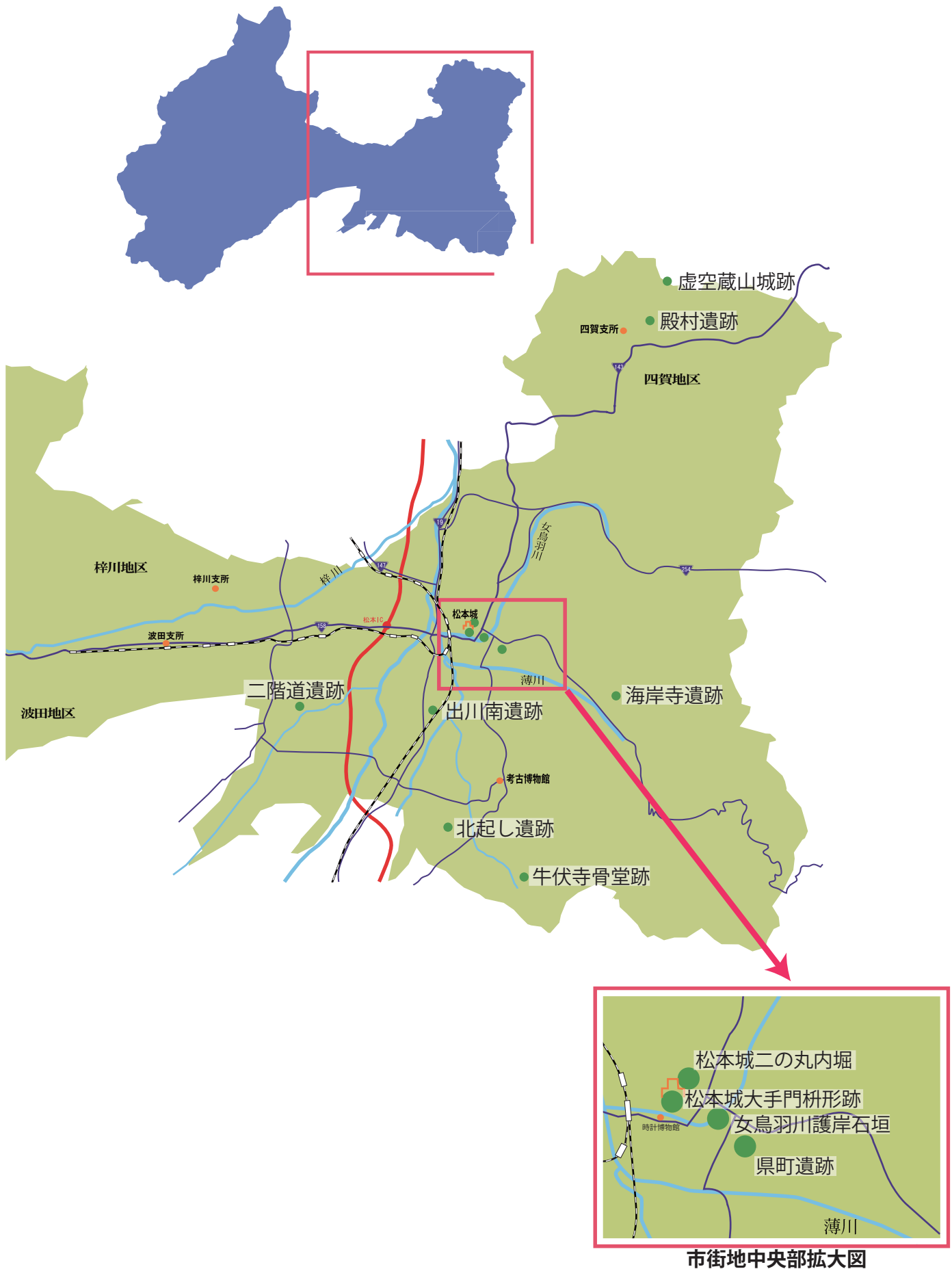
～松本市遺跡発掘報告会～

次 第

平成 25 年 2 月 16 日（土）

	司 会	松本市教育委員会文化財課課長補佐 大竹永明	
13:00	開 会		
13:00～13:05	ご 挨拶	松本市教育委員会教育長	吉江 厚
13:05～13:15	趣旨説明・平成 24 年発掘調査の概要	松本市教育委員会文化財課課長 伊佐治裕子	
13:15～13:45	事例報告① 県町遺跡 第 17 次発掘調査	松本市教育委員会文化財課 石井佑樹	
13:45～14:15	事例報告② 海岸寺遺跡の試掘調査	松本市教育委員会文化財課 三村竜一	
14:15～14:25	休 憩		
14:25～14:55	事例報告③ 松本城大手門枡形跡 第 1 次発掘調査	松本市教育委員会文化財課 福沢佳典	
14:55～15:55	講 演 松本城の調査とその意義・課題 一城下町も含めて一	松本城管理事務所研究専門員 後藤芳孝 氏	
15:55～16:05	質 問		
16:05	閉 会		
16:05～	講師・発表者による展示解説・質問（3 階企画展示室）		

2012年の発掘調査地点



平成24年(2012年)埋蔵文化財発掘調査、報告書刊行一覧表

	遺跡・調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時 代	特徴・備考
1	アガタマチイセキ ダイ ジ 県町遺跡第17次	3/1～7/10	2259㎡	人工芝運動場建設	弥生・古墳・平安時代	弥生～古代集落 弥生時代墓址
2	イデガワミナミイセキ 出川南遺跡第18次	4/23～ 25. 3/29	約3000㎡	市道建設	古墳～平安時代	古代集落
3	イデガワミナミイセキ 出川南遺跡第19次	5/14～6/22	158㎡	民間開発	弥生～平安時代	原始・古代集落
4	イデガワミナミイセキ 出川南遺跡第20次	6/7～7/4	502㎡	民間開発	弥生～平安時代	原始・古代集落
5	キタオノ イセキ 北起し遺跡第2次	7/2～8/3	146㎡	民間開発	奈良・平安時代	古代集落
6	ゴフク ジ コツドウアト 牛伏寺骨堂跡	5/25～6/12	80㎡	学術発掘	中世・近世	古代中世寺院跡 (牛伏寺誌刊行会が実施)
7	コクウゾウサンジョウアト 虚空蔵山城跡	7/17～11/21	82. 7㎡	学術発掘	中世	中世城館跡
8	トノムラ イセキ 殿村遺跡第4次	10/1～12/26	140㎡	遺跡整備事業	中世	中世遺構群
9	ナガイ ハライセキ 長居原遺跡	8/16～8/30	60㎡	学術発掘 (測量調査を含む)	中世	中世遺構 (東海大学が実施)
10	マツモトジョウオオテモン マスガタアト 松本城大手門枳形跡	7/30～12/28	550㎡	多目的広場整備	中世・近世	城館跡
11	カイガンジ イセキ 海岸寺遺跡	9/24～10/11	103. 6㎡	確認調査	平安時代・中世	古代中世寺院跡
12	メバガワ ゴガンインガキ 女鳥羽川護岸石垣	10/22～11/16	54. 4㎡	確認調査	近世・近代	近代防災遺跡
13	マツモト ジョウセキ 松本城跡 ニノマルゴテンアト (二の丸御殿跡 ニシガワウチボリヒガシメンイシガキ 西側内堀東面石垣)	11/12～ 25. 1/31	70㎡	史跡整備	戦国～江戸時代	城館跡
14	ニカイドウイセキ 二階道遺跡	11/5～ 25. 1/31	1952㎡	市道改良	弥生・平安時代	弥生～平安時代集落
15	マツモト ジョウセキ 松本城跡 サンノマルアトコヤナギマチ3ジ (三の丸跡小柳町3次)	10/31～ 12/28	438. 1㎡	民間開発	近世	近世武家屋敷跡
16	シナ イイセキ カクニンチョウサ 市内遺跡確認調査	通年	1833. 62 ㎡	試掘・立会	各時代	試掘50地点
17	トノムラ イセキ 殿村遺跡第3次	通年		遺跡整備事業	中世	報告書作成

※調査継続中のものは、終了日・面積は見込の数字です。

開発工事等による市内遺跡試掘確認調査一覧（平成24年）

No.	事業者	所在地	原因事業	面積 (㎡)	遺跡との関係		結果	遺構・遺物	備考	期間
1	民間会社	井川城2	宅地造成	15.00	小島遺跡	該当	なし			1月10日
2	民間会社	城山	宅地造成	45.00	放光寺遺跡	隣接	あり	平安住居跡	現状保存 遺跡範囲拡大	1月12・13日
3	個人	井川城1	共同住宅	32.00	井川城址	隣接	なし			1月17・18日
4	個人	双葉	遺構確認	25.00	出川西遺跡	該当	なし			2月3日
5	民間会社	下岡田	宅地造成	193.70	岡田堀ノ内遺跡 岡田氏館跡	該当	あり	平安住居跡・中 世土坑	記録保存済	2月6～16日
6	民間会社	岡田町	宅地造成	30.00	岡田西裏遺跡	該当	あり	縄文・古墳土器	現状保存	2月27日
7	個人	寿豊丘	共同住宅	48.00	百瀬遺跡 百瀬陣屋跡	該当	あり	平安遺構、陣屋 土塁	記録保存済	2月27日～3月 1日
8	個人	里山辺	宅地造成	19.50	新井遺跡	該当	あり	平安住居跡	現状保存	3月12日
9	民間会社	平田東1	宅地造成	7.00	平田北遺跡	近接	なし			3月15日
10	松本市	出川町	市道建設	12.00	出川南遺跡	該当	あり	弥生遺物・中世 ピット	本調査予定	3月21・22日
11	松本市	出川町	病院建設	6.00	出川南遺跡	該当	あり	弥生住居跡	現状保存	3月21・22日
12	民間会社	里山辺	宅地造成	18.00	千鹿頭北遺跡	該当	なし			3月26日
13	松本市	波田	灌漑施設	12.00	上野遺跡	該当	あり	縄文遺構・遺物	本調査予定	4月4日
14	民間会社	両島	宅地造成	13.50	未確認地域		なし			4月6日
15	松本市	惣社	市道改良	15.75	宮北遺跡	該当	なし			4月17日
16	民間会社	北深志2	宅地造成	15.00	松本城下町跡 安原町・天白町	該当	なし			5月1日
17	個人	里山辺	共同住宅	31.20	惣社遺跡	該当	あり	古墳遺構・中世 古銭	現状保存	5月8・9日
18	個人	城東1	個人住宅	9.00	松本城下町跡 出居番町	該当	あり	江戸ごみ穴	記録保存済	5月14日
19	個人	芳野	共同住宅	10.50	平田北遺跡	該当	なし			5月18日
20	民間会社	北深志1	個人住宅	0.70	松本城下町跡 新町	該当	あり	江戸整地層	記録保存済	5月21日
21	個人	井川城3	共同住宅	29.70	高宮遺跡	近接	なし			5月24日
22	民間会社	双葉	事務所	25.50	出川南遺跡	該当	あり	古墳遺構・遺物	本調査実施	5月29・30日
23	民間会社	中央3	寄宿舍	9.00	松本城下町跡 長松院	該当	なし			6月6日
24	個人	深志3	共同住宅	6.00	松本城下町跡 小池町	該当	なし			6月8日
25	民間会社	大手4	共同住宅	25.25	松本城跡三の丸 小柳町	該当	あり	江戸遺構・遺物	本調査実施	6月11～13日
26	民間会社	寿小赤	宅地造成	14.00	北起し遺跡	該当	あり	平安住居跡	本調査実施	6月14日
27	民間会社	村井町北2	店舗建設	14.40	高畑遺跡	該当	なし			6月15日
28	松本市	丸の内	駐車場造成	45.30	松本城跡三の丸 北門・北総堀	該当	あり	北門柱穴遺構・ 総堀土塁	記録保存済	6月18日～7月 11日
29	個人	波田	福祉施設	15.00	御殿場遺跡	近接	なし			6月26日
30	民間会社	和田	店舗建設	12.00	下柳原遺跡	近接	なし			6月27日
31	民間会社	和田	宅地造成	12.00	未確認地域		なし			6月27日
32	個人	庄内2	宅地造成	18.00	筑摩遺跡	近接	あり	古墳遺物	記録保存済 遺跡範囲拡大	7月18日
33	民間会社	島立	宅地造成	14.60	南栗遺跡	該当	なし			7月20日
34	民間会社	井川城2	宅地造成	25.50	小島遺跡	近接	なし			7月25日
35	松本市	和田	市道新設	12.00	二階道遺跡	隣接	なし			7月31日

No.	事業者	所在地	原因事業	面積 (㎡)	遺跡との関係		結果	遺構・遺物	備考	期間
36	民間会社	里山辺	医療施設	13.20	県町遺跡	該当	あり	平安遺構・遺物	現状保存	8月2日
37	民間会社	野溝木工2	携帯基地局	3.15	野溝遺跡	該当	なし			8月8日
38	個人	出川町	個人住宅	7.00	出川南遺跡	該当	あり	弥生・平安・中世遺構	記録保存済	8月8～10日
39	民間会社	寿北1	宅地造成	13.20	未確認地域		あり	平安住居跡・溝	現状保存、寿畑田遺跡新設	8月20日
40	民間会社	中央3	共同住宅	9.00	松本城下町跡本立寺	該当	なし			8月22日
41	民間会社	城西1	遺構確認	16.50	未確認地域		なし			8月27日
42	個人	里山辺	共同住宅	24.00	下原遺跡	該当	なし			8月28日
43	民間会社	原	宅地造成	56.47	宮の上遺跡 塚畑古墳 下屋敷遺跡近接	該当	あり	古墳遺構・遺物	現状保存 遺跡範囲拡大 (下屋敷遺跡)	8月30・31日 10月2日
44	個人	井川城3	宅地造成	22.40	高宮遺跡	近接	なし			9月3日
45	農業法人	今井	農産加工所	10.20	今井新田原遺跡	隣接	なし			9月5日
46	民間会社	北深志1	宅地造成	10.60	松本城下町跡袋町	該当	なし			9月7日
47	社福法人	内田	福祉施設	27.20	小池遺跡	該当	あり	平安住居跡	現状保存	9月11・12日
48	民間会社	北深志2	宅地造成	23.80	松本城下町跡堂町	該当	なし			9月20日
49	個人	井川城1	共同住宅	19.60	井川城址	該当	なし			9月21日
50	民間会社	県1	店舗建設	18.00	県町遺跡	該当	あり	平安住居跡	現状保存	9月24日
51	松本市	和田	市道拡幅	170.00	二階道遺跡	該当	あり	弥生包含層 平安住居跡	本調査実施	10月3～16日
52	民間会社	浅間温泉1	福祉施設	15.50	本郷高田遺跡	該当	あり	縄文遺構・遺物	現状保存	10月11日
53	個人	筑摩2	共同住宅	9.00	筑摩遺跡	該当	なし			10月12日
54	長野県	県2	高校駐輪場	9.00	県町遺跡	該当	なし			10月17日
55	民間会社	沢村2	宅地造成	13.65	沢村北遺跡	該当	なし			10月19日
56	民間会社	旭1	宅地造成	18.20	松本城下町跡岡の宮遺跡	該当	なし			10月24日
57	民間会社	笹賀	宅地造成	15.40	神戸遺跡	該当	なし			10月25日
58	松本市	沢村1	市道新設	19.50	沢村遺跡	該当	あり	平安遺物	記録保存済	10月29・30日
59	松本市	城西2	公園整備	14.30	松本城跡西総堀	該当	なし			11月2日
60	長野県	芳野	遺構確認	49.70	出川南遺跡	該当	あり	平安遺物		11月5・7日
61	個人	里山辺	共同住宅	10.40	下原遺跡	該当	なし			11月13日
62	個人	筑摩3	共同住宅	10.40	三才遺跡	該当	なし	土師器(流入)		11月19日
63	長野県	大村	県道改良	19.60	大村新切古窯址	該当	なし			11月28日
64	民間会社	野溝木工1	宅地造成	9.10	五輪遺跡	該当	なし			11月29日
65	個人	惣社	共同住宅	11.20	宮北遺跡	該当	なし			11月30日
66	個人	里山辺	共同住宅	13.20	宮北遺跡	該当	なし			12月3日
67	民間会社	惣社	宅地造成	22.10	宮北遺跡	該当	なし			12月4日
68	松本市	和田	市道新設 公民館移転	45.50	和田太子堂遺跡	該当	あり	溝、平安住居跡	本調査実施予定	12月5・7日
69	松本市	大村	運動場造成	30.70	大村前田遺跡	近接	なし			12月10・11日
70	民間会社	岡田	宅地造成	50.40	岡田西裏遺跡	該当	なし			12月12・13日
71	松本市	和田	市道拡幅	116.15	二階道遺跡 和田太子堂遺跡	該当	あり	平安住居跡	本調査実施予定	12月17～27日
72	個人	蟻ヶ崎5	福祉施設	36.00	峰ノ平遺跡	近接	なし			12月14日
73	民間会社	里山辺	宅地造成	13.20	下原遺跡	隣接	なし			12月20日

発掘現場の現地説明会の様子を紹介します



虚空蔵山城跡の発掘は9月9日に現地説明会を開催しました。山中の発掘でしたが、地元の皆さんや熱心な山城研究者が他県からも訪れ、100名近くが集まる盛況ぶりでした。



出川南遺跡第18次発掘調査では、地元の公民館の主催で25年1月27日に現地説明会が開催されました。厳冬期にもかかわらず地元の皆さんなど58名が集まり、発見された住居跡や出土品を見学しました。

県町遺跡 第17次発掘調査

- 1 調査地の所在
松本市県1丁目1990-2
- 2 調査原因
人工芝運動場建設事業、市道拡幅事業

- 3 調査期間
平成24年3月1日～7月10日

- 4 調査面積
2,259㎡

- 5 発見された遺構
 - (1) 竪穴建物址 40軒（弥生～平安時代）
 - (2) 掘立柱建物址 3棟（平安時代）
 - (3) 墓址 5基（弥生時代）
 - (4) 土坑 60基（弥生～平安時代）
 - (5) 溝 5条（平安時代）

- 6 主な出土遺物
 - (1) 弥生時代 弥生土器、石器、骨
 - (2) 古墳時代 土師器、須恵器、石製模造品、白玉
 - (3) 奈良～平安時代 土師器、須恵器、灰釉陶器、陶硯、鉄器、銭貨、砥石

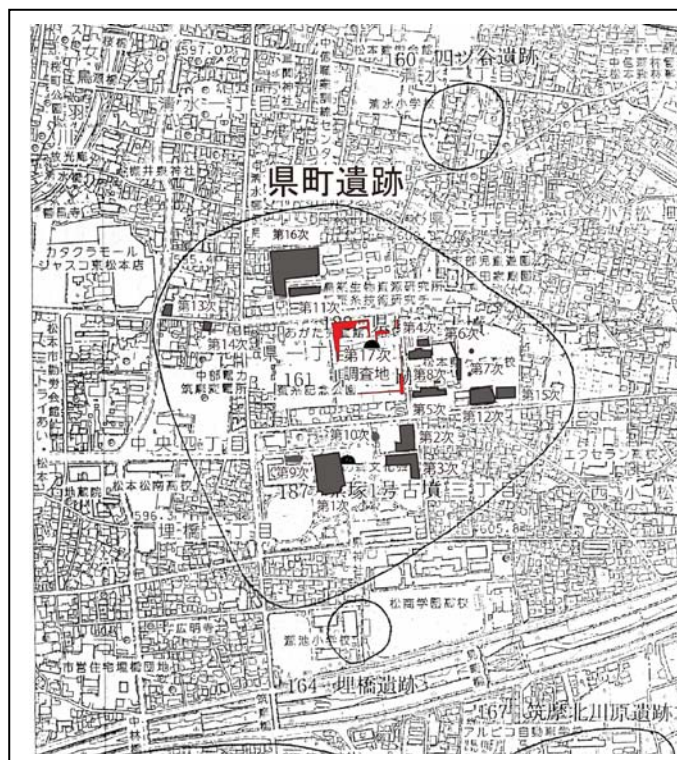
- 7 あがたの森周辺一帯に広がる複合遺跡

県町遺跡は、女鳥羽川と薄川によって形成された複合扇状地の扇端部に立地し、これまでの16次にわたる調査によって、弥生時代から平安時代に有力な集落があったことが明らかになっています。今回の調査でも、弥生時代中期（約2000年前）、古墳時代中期（約1600年前）及び奈良時代末～平安時代初頭（約1200年前）の集落跡などが見つかりました。

- 8 弥生時代の墓群

南東隅調査区で弥生時代中期の墓跡が密集して発見されました。礫床木棺墓(れきしょうもつかんぼ)3基と土坑墓2基はほぼ南北に軸を揃え、整然と並んで見つかりました。礫床木棺墓とは、板で四周を囲んだ木棺の底板のかわりに、小さな礫を敷き詰めたものです。これらより北では弥生の遺構が見つからなかったため、生活域の縁辺部にあたるようです。墓群は元々あった同時期の竪穴建物址を壊して造られており、生活域から墓域へと移り変わったのでしょうか。

礫床木棺墓3基には、長さ×幅（cm）が約230×100と細長く掘られたものと、およそ200×180と幅広く掘られたものがあります。前者の特徴は埋土の上に人頭大の礫が縦に並んでおり、後者は埋土の中にも多量の河原石が詰められ、さらに木棺の四隅で側板を支えていた大きめの礫が置かれていました。後者のタイプの2基は東西に隣り合っており、同時に造られた可能性がありそうです。両タイプとも共通して礫床上から多量の焼骨が見つかり、木棺の短辺に板を据えるための小口痕も見つかりました。被熱した河原石も確認しましたが、墓で火を焚いた痕跡は確認できなかったため、河原で火葬したものを河原石ごと運んできて木棺に埋葬したのでしょうか。骨はほとんどが細かい破片で出土しました。遺物は赤く塗られた高杯などの弥生土器や磨製石鏃が出土しています。今後出土した骨の分析を進めることで性別や年齢、被葬者達の関係などが詳しく分かるかもしれません。





礫床上で骨や土器が出土



礫床木棺墓の調査

9 古墳時代の集落跡

調査地の南側では古墳時代中期（5世紀）の竪穴建物址が4軒発見されました。東西に細長い調査区のさらに南北に集落は続いているものと思われます。

240住とした竪穴建物址からは、当時の人が使っていた土師器の食器や煮炊き具、貯蔵具が壁際や床面から、そして、竪穴建物址からの出土としては市内初となる初期須恵器が床面から見つかりました。初期須恵器とは、日本列島で須恵器生産が始まったころ、畿内や東海の窯で焼かれ搬入されたものです。

次に239住とした竪穴建物址からは、特殊な遺物が多く見つっています。まず床面や柱穴の中からやはり初期須恵器が出土しました。次に、勾玉や鏡を模して造られた石製模造品が出土しました。これらは実用的なものではなく儀式などで祀るためのものと想定されています。さらに装飾品の白玉が見つっています。

当時の人々が他地域と交流し、そして何らかの祭祀をして暮らしていた様子が窺えます。



竪穴建物址壁際から出土した土師器の壺や高杯



初期の須恵器と白玉

10 奈良・平安時代の集落跡

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物址33軒、掘立柱建物址3棟などが発見されました。時期はいずれも奈良時代末から平安時代初頭の9世紀前後で、調査地のほぼ全域から見つっています。ほとんどの竪穴建物址が何軒も重複した状況で確認されました。

出土した食器や煮炊き具、刀子（ナイフ）などは一般的な集落で使われたものです。搬入品の甲斐型杯（かいがたつき）も出土しています。また、247住とした竪穴建物址は炭化材の出土状

況から火事にあった住居と考えられ、床面には炭化物が一面に広がっていました。近くでよく観てみると繊維質が確認でき、床に敷いていた筵(むしろ)が焼けて残ったものと考えられます。



228住カマドの出土状況



247住床の炭化物

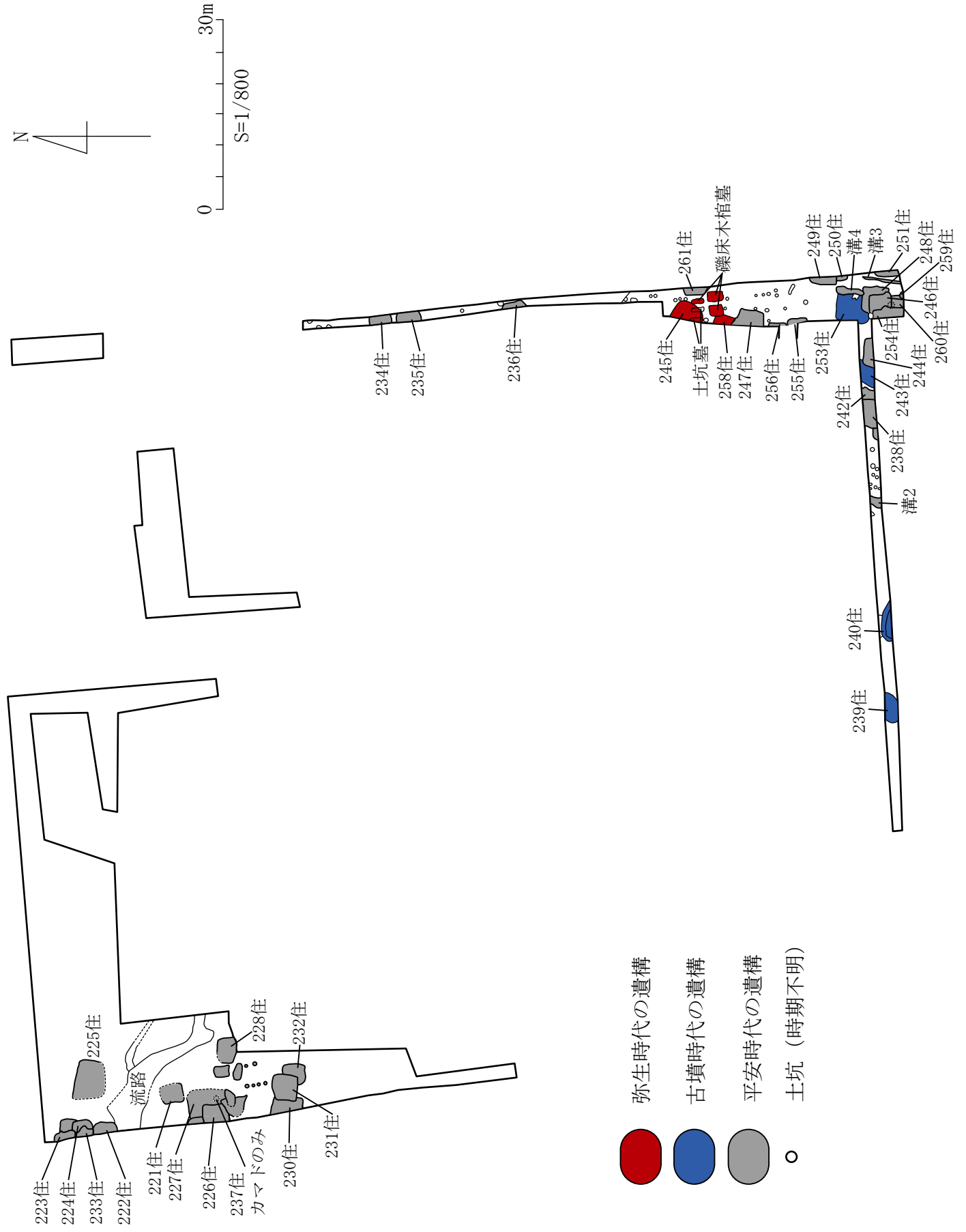
11 調査の成果

- (1) 弥生時代中期の墓群を確認しました。
- (2) 古墳時代中期の集落跡の一部が確認でき、初期須恵器や石製模造品、臼玉の出土により集落の特殊性が想定されます。
- (3) 奈良・平安時代（9世紀初頭）の大規模な集落跡を確認しました。今次調査地の100m程北西で行われていた第16次調査地点では9世紀末から10世紀の大集落が発見されており、県町遺跡内での古代集落の変遷が捉えられました。

過去の調査一覧（面積は㎡）

調査次	調査年	面積	検出遺構	備考
	大正8年			緑釉陶器出土
第1次	昭和55年	4,000	住居3（弥生2、平安1）、礫敷遺構1	弥生時代石器が一括出土
第2次	昭和59年	1,338	住居17（弥生）	焼失住居4軒
第3次	昭和60年	1,372	住居24（弥生23、平安1）	
第4次	昭和61年	853	住居13（平安）、溝4、集石3	緑釉陶器、青磁、白磁、鈔帯が出土
第5次	昭和62年	696	住居27（弥生2、古墳4、平安21）溝2、ビット群1	古墳時代の遺構を確認
第6次	昭和63年	84	住居2（平安）	
第7次	昭和61年	6	住居2（平安）	
第8次	平成元年	48	住居2（平安）	
第9次	平成3年	330	建物址1（平安）	掘立柱建物址（5×4間）出土
第10次	平成7年	40	溝2	
第11次	平成9年	662	住居4（奈良・平安）、建物址1	海老錠、風字硯、朱墨硯、隆平永宝（皇朝十二銭）、鉄製品が出土
第12次	平成13年	1,200	住居37（弥生1、奈良・平安27、不明8）	緑釉陶器、緑彩文陶、緑釉三足盤、鈔帯、陶硯、銭貨が出土
第13次	平成16年	170	土坑・ビットなど	
第14次	平成19年	595	住居21（奈良・平安）、井戸2	多量の緑釉陶器、緑彩文陶、墨書土器、朱墨硯、丸靱、銭貨、青磁、白磁が出土
第15次	平成22年	702	住居2（平安）	
第16次	平成22・23年	4,420	住居55（弥生5、平安50）、建物址5（弥生）、土器棺墓1、火葬木棺墓1	勾玉、管玉、指輪状石製品、多量の緑釉陶器、緑彩文陶、青磁、白磁、鈔帯などが出土

県町遺跡第17次 調査概要図



かいがんじ
海岸寺遺跡の試掘調査

1 海岸寺遺跡の環境について

- (1) 地理的環境
- (2) 歴史的環境
 - ア 奈良・平安時代
 - イ 中世

2 旧海岸寺について

- (1) 旧海岸寺木造千手観音立像（長野県宝）
- (2) 旧海岸寺経塚出土品（松本市重要文化財）
- (3) 文書史料
 - ア 木製棟札
 - イ 『信濃国筑摩郡元禄絵図調製資料集録』（元禄十一年寅正月山家組桐原村方々道法）

3 試掘調査の概要

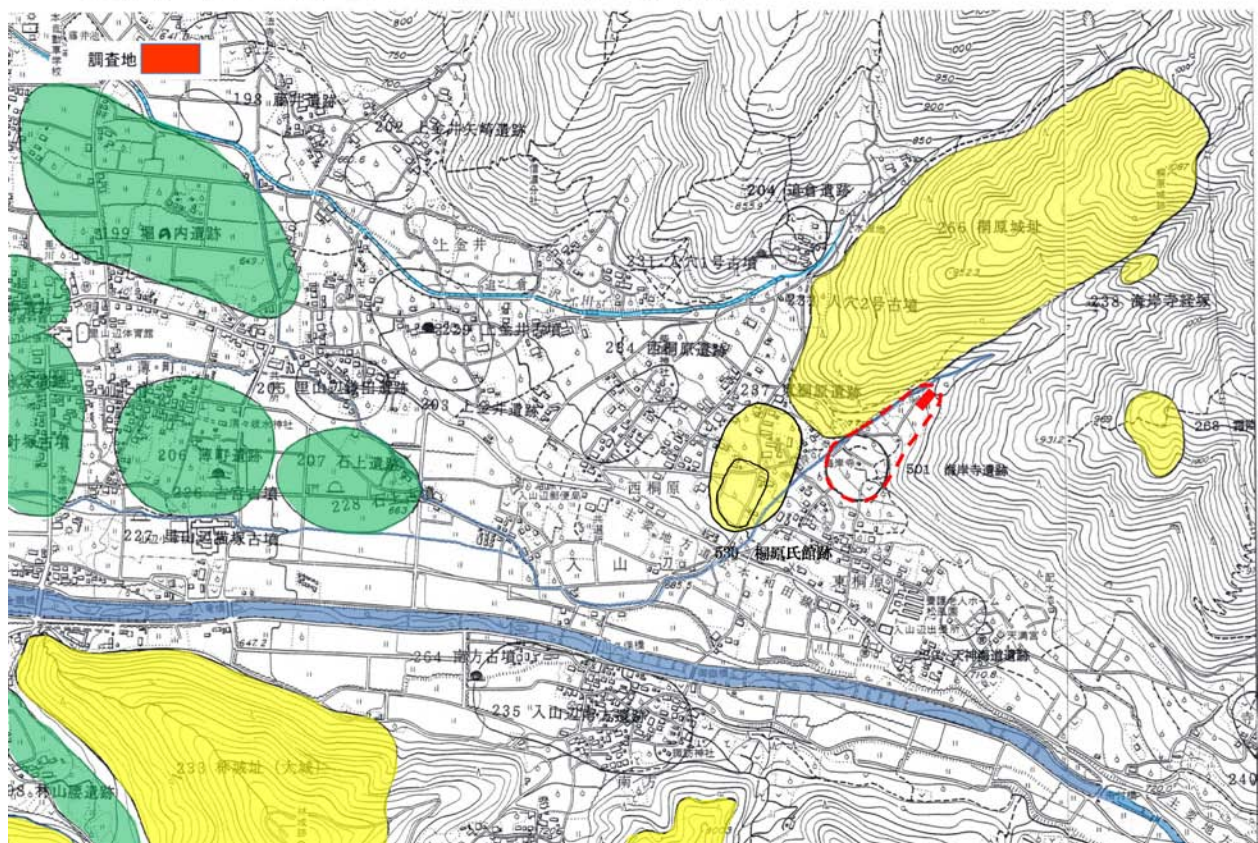
- (1) 位 置 松本市大字入山辺東桐原
- (2) 面 積 1 0 4 m²
- (3) 期 間 平成24年9月24日～10月11日
- (4) 目 的 遺跡の範囲・時代・性格などの推測
- (5) 時 代 古代、中世
- (6) 遺 構 雛段状の大規模造成地（全体）、石列（建物の基礎部分か）1、池状遺構1、土坑12
- (7) 遺 物 土師器、須恵器、灰釉陶器、内耳鍋、陶磁器、砥石

4 まとめ

- (1) 試掘調査の成果
 - ア 遺跡の範囲
 - イ 遺跡の時代
 - ウ 遺跡の性格
- (2) 今後の課題
 - ア 信濃守護小笠原氏関連遺跡との関係
 - イ 遺跡の性格の解明

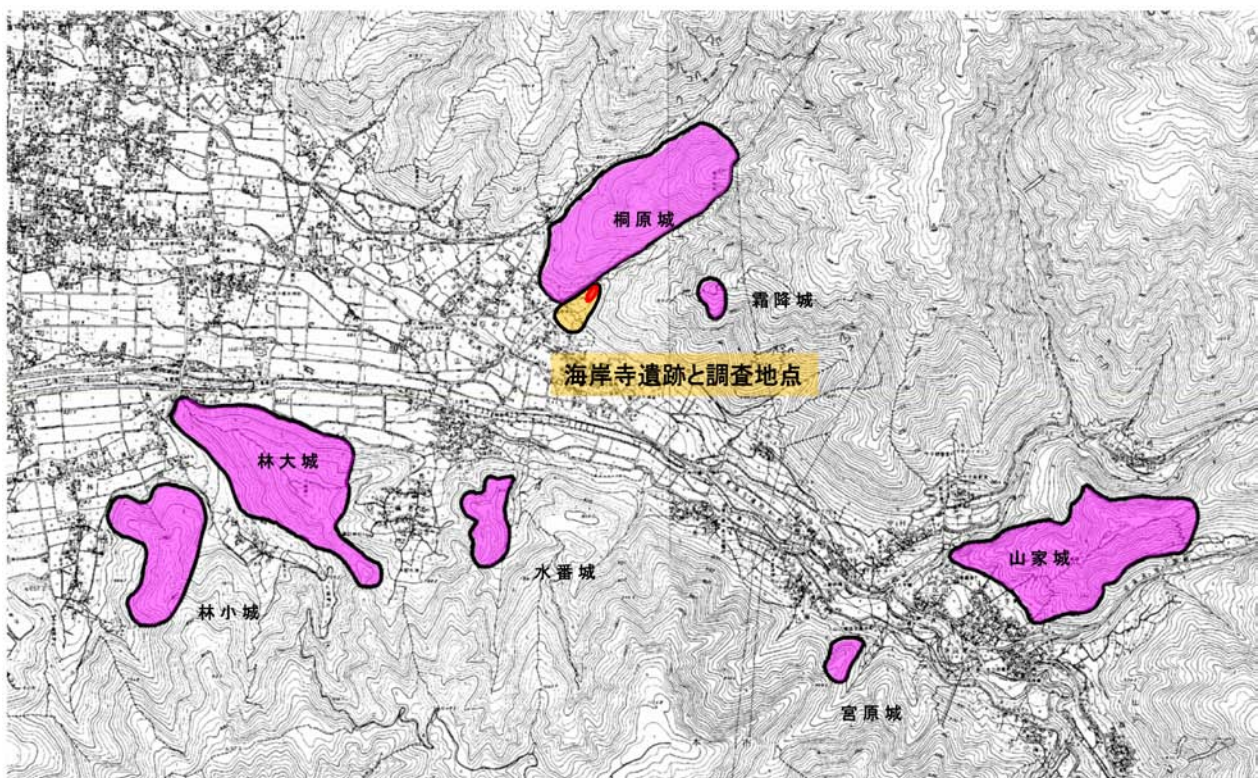
海岸寺遺跡と周辺遺跡(山家郷)

やまんべごう



黄色……海岸寺遺跡に特に関連がある遺跡 緑……発掘調査が行われた古代・中世の遺跡

遺跡の位置と山辺地区の山城分布





長野県宝 旧海岸寺木造千手観音立像（平安時代中期）

観音堂に安置され、地域の旧海岸寺本尊保存会の皆さんが管理されています。

松本市最古の木造仏像です。



市重文 旧海岸寺経塚出土品（平安時代末期）

青銅製の経筒に經典とともに白磁合子、鉄製刀子を入れ、埋納したものです。この時期には末法思想が全国的に広がっていて、貴族層を中心に経塚の造立が盛行していました。

文書史料

木造棟札 海岸寺所蔵（『信濃史料』第廿二巻）

元和三年丁巳三月十八日

桐原山海岸寺本尊千手観音堂従奥院當所へ安鎮奉造立。
當場並田地下々田五畝四歩畔共寄進ニ附置者也。

施主 桐原與曾衛門

『信濃国筑摩郡安曇郡元禄絵図調製資料集録』（倉科明正編）

元禄十一年寅正月

山家組桐原村方々道法

一 桐原殿本城之広さ

卯より西の方へ十六間
子より午江十五間

但シ土手石がき

中略

一 桐原村札場より寅ノ方江八丁三拾間

古堂場

弘法大師ノ石空殿

独鉈水と申す池有

一 桐原村 巳戌 長 村長七丁弐間

中略

是迄元禄十一年三御上様江書上置也

（松本市入山辺字東桐原 百瀬八郎氏所蔵）

木製棟札

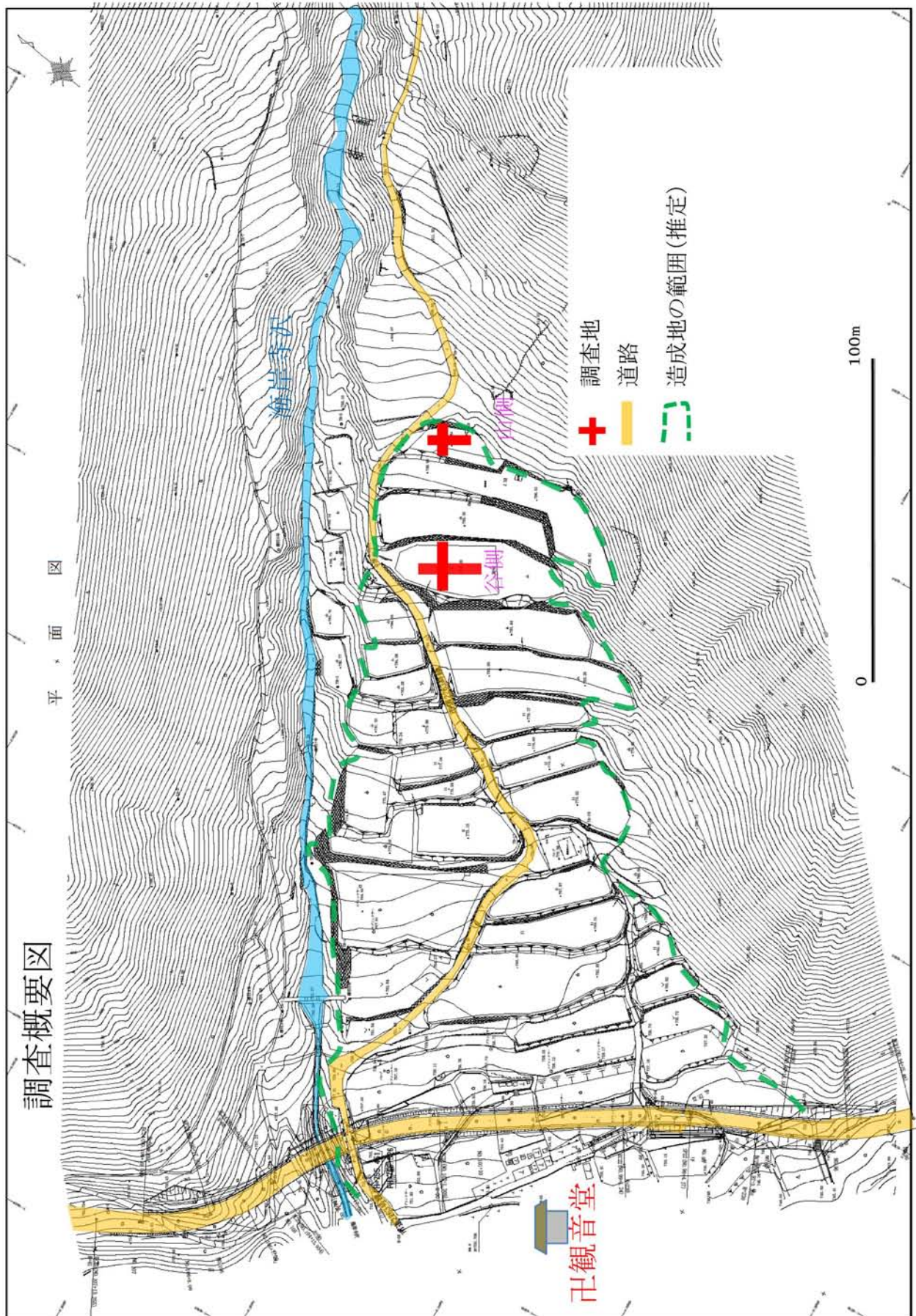
奥院から中院に本尊を遷した事が記述されています。（元和三年・1617年）

『信濃国…

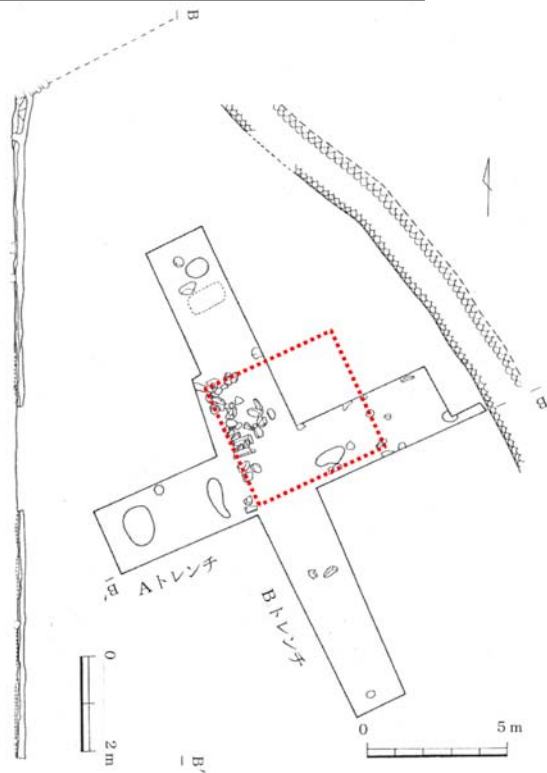
桐原村札場の東北東の方角900mに古堂場・弘法大師の石空殿・独鉈水という名称の池がある事が記述されています。（元禄十一年・1698年）

調査概要図

平 面 図



全体図 1 (A・Bトレンチ)



今回は2箇所で十文字の調査区を設定しました。このうちA・Bトレンチは谷側の調査区です。

自然地形では、平面図の右上から左下に向かって傾斜の方向があります。

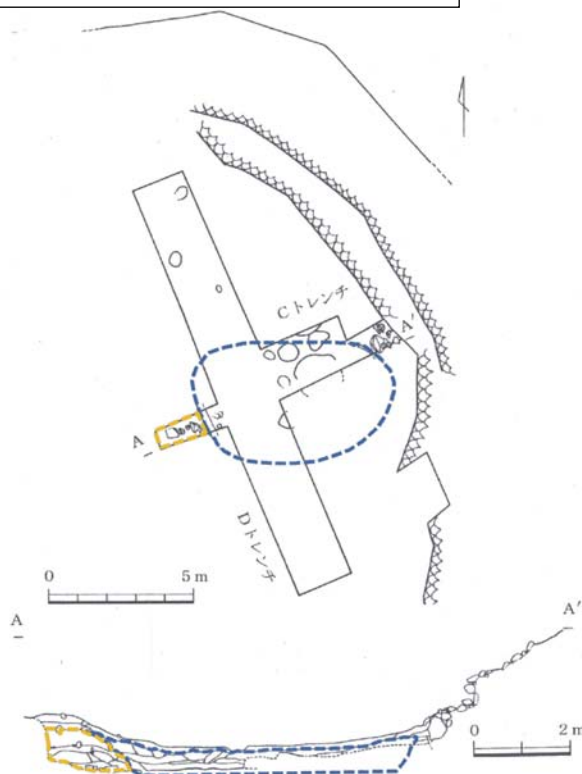
赤色の破線で囲まれた部分は建物が建てられていたと推定される範囲で、約5×5mの規模を測ります。

この範囲内には、地盤を良くするために、造成土の中に多くの石を混ぜて、固く叩きしめてありました。

トレンチの中にある丸い線は、土坑と推定されます。

断面図から、造成面はほとんど水平である事がわかります。

全体図 2 (C・Dトレンチ)

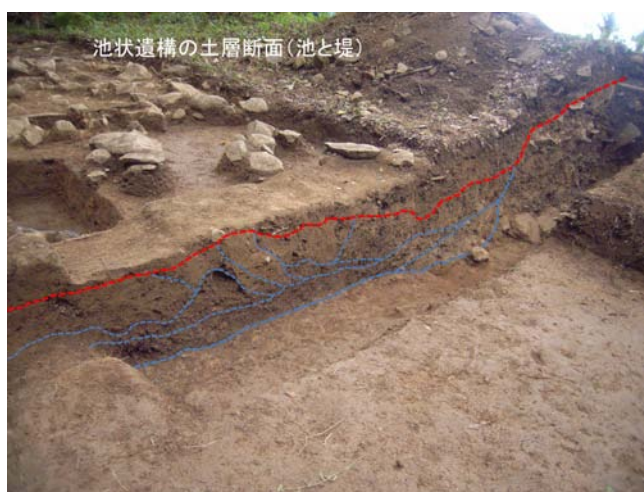


山側に設定した調査区です。雛段状の大規模造成地の最上段にあたります。ここは海岸寺沢源流の1つで、自然に水を得ることができます。

平面図の山側(右側)に2段の石垣が築かれています。青色の波線は池状遺構の推測される範囲で、水を溜めてあった様子が認められました。

断面図を見ると、傾斜地にも関わらず、窪地状を呈しているのがわかります。図中の青色破線は池状遺構の堆積土で、黄色の部分には谷側に築かれた堤と推測されます。この図のすぐ左には石垣があり、下の段との境界になっています。

文書史料に書かれた独鉦水である可能性があり、注目されます。



(上) 建物の基礎部分か

赤い線の範囲が建物の基礎部分と推測されます。赤線上に木材を渡して建物の土台にしていたと考えられます。

(中) 池状遺構の土層断面

青色の部分は池状遺構の堆積土。
写真右側は池の堤で、一段下の造成面の石垣の裏側になります。
赤い線から上の土は、現代の地表土です。

(下) 池の堤の土層断面

黄色の部分は盛り上げられた堤で、多数の石を混ぜた土と石を含まない土を交互に積み重ね、固めています。
赤い線から上の土は、現代の地表土です。

松本城大手門枡形跡 第1次発掘調査

1 調査の概要

(1) 調査地の所在 松本市大手3丁目77番地14ほか

(2) 調査の目的

大手門枡形跡の遺構の残存状態を確認し、構造・規模・時代を明らかにする。

(3) 調査期間 平成24年7月30日～平成24年12月28日

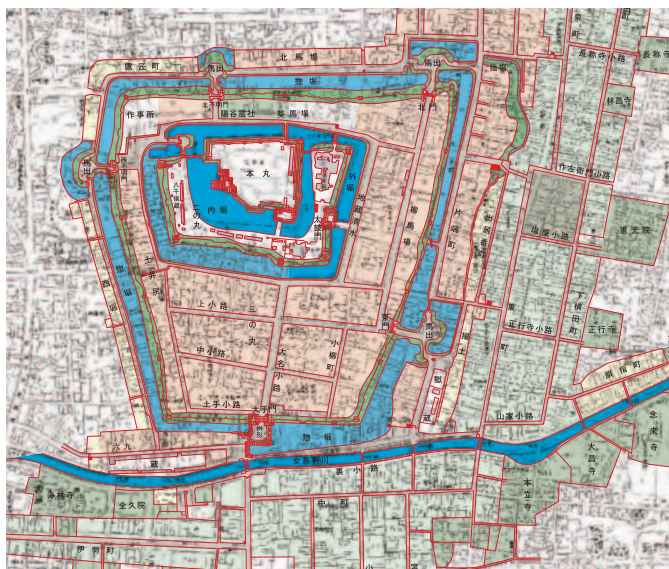
(4) 調査面積 215.5㎡

2 松本城と大手門の位置

松本城は典型的な近世城郭で、中央に逆台形の城郭部があり、その周辺に武家地・城下町を配置しています。城下町は、女鳥羽川を挟んで南側と東側を通る善光寺街道沿いにつくられています。そのさらに外側には寺社地を配置し、有事の際に防衛空間としていました。

城郭部は本丸・二の丸・三の丸から構成され、それぞれが土塁と堀によって囲まれています。本丸・二の丸は梯郭式で二の丸と三の丸は輪郭式で構成されています。

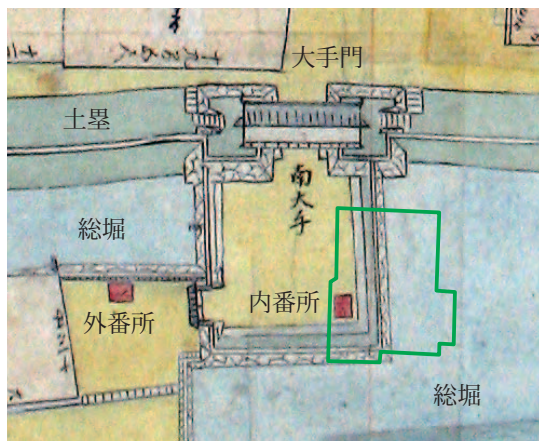
大手門は、城外から城内（三の丸以内）に入る出入口のひとつで枡形という形態でつくられています。三の丸を囲む総堀には5ヶ所の出入口がありますが、他の4つの出入口は馬出しという形態でつくられており、最も格が高く、本丸に正門にあたります。また、太鼓門・黒門に比べて枡形の空間も広くつくられています。



第1図 松本城の復元図

「享保一三年秋改松本城下絵図」（1728年）をもとに復元したものです。

大手門は南から城下町から城内に入る正門です。東西に有力家臣の屋敷地が並ぶ大名小路を通り、太鼓門・黒門を通り、天守のある本丸に至るのが正式な登城ルートです。



第2図 調査地の推定位置

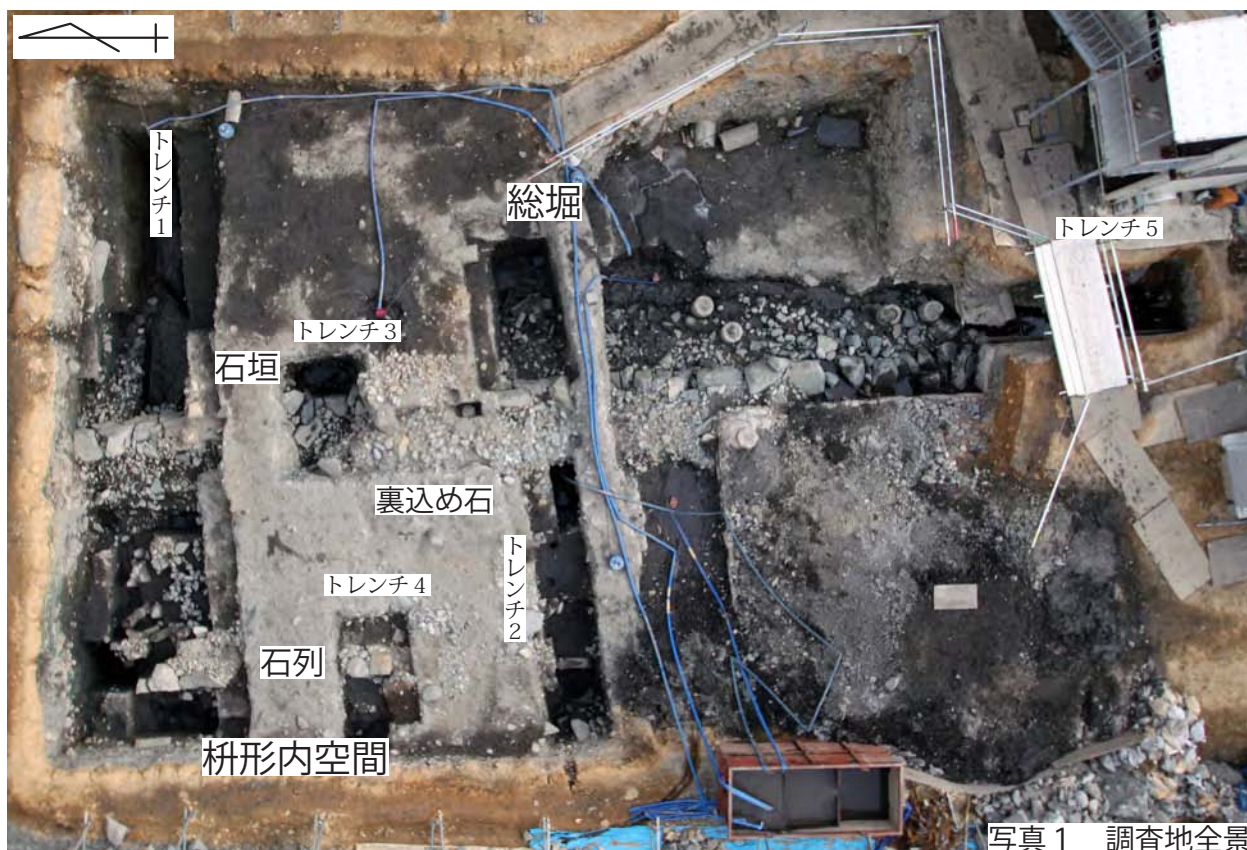
「享保一三年秋改松本城下絵図」に描かれている大手門の様子です。絵図には2つの門と石垣、堀に囲まれた方形の空間や総堀・赤く塗られた番所などが描かれており、枡形の様子がよくわかります。

緑線で囲んだ範囲が今回の調査地と考えられ、ほぼ中央に南北にのびる石垣があり、東半は総堀となっています。また、黄色で塗られた枡形内空間も調査地内に入っています。

3 調査成果

今回の調査区は、大手門枡形の東辺部分にあたります。地表面から120cmほど掘り下げた段階で、東に面を揃える石垣を検出しました。絵図によると、石垣より東側は総堀で、石垣の基底部分を一部で確認できたことにより、堀底も確定しました。

また、堀を埋め立てた土の下からは割石や瓦、建築木材などが多量に出土しました。明治4年の廃藩置県以降の大手門破却の際に短時間に廃棄されたものと考えられ、当時の様子をを知ることができる良好な資料を得ることができました。



(1) 石垣について

石垣は調査区のほぼ中央に南北に長くのびています。築石がライン上に確認できたのは約18mですが、南の約6mは多少石が動いており原位置は保っていないと考えられます。



写真2 トレンチ1の石垣

最も残りが良い場所で、高さは約1.4m、根石を含めて3段分で、勾配は約60度です。『信府統記』には枡形脇の総堀の深さが「水下4尺」という記載があり、石垣の下端から約1.2mの高さまで水があったと考えられます。

石材は閃緑岩やひん岩、砂岩で、東山で切り出されたものです。

基底部分の根石は、割石や加工していない自然石を使い、周りに川原石を多く詰めています。上の2段の築石は表面をはつって仕上げています。



写真3 根石と胴木

トレンチ3では、築石が残っていなかったため、根石の様子がよくわかりました。築石に比べて奥行（控え）を長くとるように据えており、安定度を重視しています。

また、根石の下には軟弱地盤による石垣の不等沈下を防ぐために松の胴木を並べています。また、胴木前にも杭が刺さっており、根石とこの杭の間にも河原石が詰まっていた。

↓ 写真4 石垣の改修(左:東から撮影、右:北から撮影)



石垣の一部に、周りの石より小さく、細長く加工された石が積まれた場所があり、他の箇所と時期差があると考えられます。地震などで崩落した石垣を部分的に改修した可能性があります。今後、「修復願」など、文献記録と照らし合わせて考えていく必要があります。

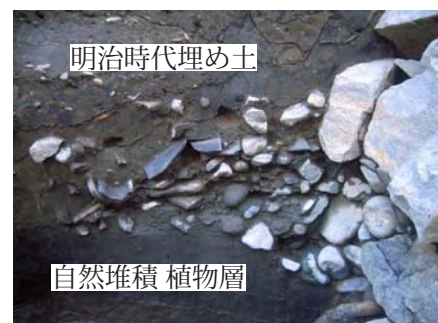


写真5 石垣前面の根固め

石垣前面に拳大程度の円礫を敷き詰めていました。最下段の基底部分を隠すように積まれています。細かい瓦の破片が混じっているため、築造当初のものではなく後世に施したものと考えています。

(2) 石垣と石列



写真6 石垣と石列（枅形内部の構造）

石垣の根石から西へ約5.5mの地点には、西に面を揃える石列が検出されました。石垣と石列の間は礫が混じる整地土などで造成工事を行なっています。石列は石垣の根石とは違って、しっかりと固めた整地土の上に並べてあり、下に土台木はありません。

江戸時代の長さに換算すると江戸間で3間（1間＝6尺、1尺＝約30.3cm）幅となります。

(3) 明治時代以降の大手門枅形の取り壊し

明治4年：廃藩置県。大手門や堀の取り壊しがされる。

10月：兵部省から山県有朋らが松本に出張し、天守・武器の引き渡し、二の丸用地の松本県への引き継ぎを行う。同時に、天守を残して^{きゅうとう}櫓・門・堀などを破却。

→松本藩士 樋口新左衛門充造は、明治5年元旦の日記に、旧冬御城櫓や堀門などが入札で壊されたり、家中も家作が取り払われたため、松飾りもない寂しい元旦であったと記しています。

明治6年：筑摩県博覧会の錦絵（明治6年 安藤廣重画） 松本市立博物館蔵



第3図 筑摩県博覧会錦絵

明治5（1872）年に天守は競売によって235両余りで落札されました。北深志横田町の副戸長、市川量造は、東京・京阪にまで足を運び資金を募り、明治6年から9年まで5回にわたって博覧会を開催し、入場券収益も買戻し資金に充てました。

錦絵を見ると、大手門は壊され、門台のみとなっています。枅形の堀も壊され、方形空間を形成していた石垣も上部は壊されているようです。

明治9年：千歳橋を石橋とする。（古へより板橋なりしを、今度大手門跡升形の石垣を崩しその石を用ひ架設せしものにて、・・・）→「自慶応元年至明治十四年・信府統記追補」（大岩昌蔵）

明治11年：四柱神社建設のため、総堀埋め立て許可。南総堀の一部が埋め立てられる。

明治13年：明治天皇行幸。この時に行幸橋（現御幸橋）が架けられる。



写真7 割石・建築材出土状況
(トレンチ1を東から)

石垣前面の堀埋め土を掘削していく過程で、全てのトレンチにおいて割石が出土しました。

明治4年以降枅形が破却されていき、石垣の上部が解体されました。その際に、再利用可能な築石は、千歳橋などに使われましたが、間詰石などの小さな石はそのまま堀に捨てられたものと考えられます。

写真8 建築材・瓦出土状況
(トレンチ1を東から)

上記の割石の下から、瓦や建築材が一面に出土しました。釘が刺さったままの状態のものもあり、割石と同様に、枅形の周囲を巡っていた塀を壊した際にそのまま廃棄したものと考えられます。

瓦は丸瓦と平瓦があります。両者をひとつにまとめて、江戸時代中期以降に普及する棧瓦は確認できていません。



【歴代藩主家紋と出土家紋瓦】



笹竜胆 (石川氏)
1590 ~ 1613 年



三階菱 (小笠原氏)
1613 ~ 1617 年



はなれ六つ星 (戸田氏)
1617 ~ 1633 年



丸に三つ葉葵 (松平氏)
1633 ~ 1638 年



黒餅に豎木瓜 (堀田氏)
1638 ~ 1642 年



丸に立沢瀉 (水野氏)
1642 ~ 1725 年



はなれ六つ星 (戸田氏)
1725 ~ 1871 年

1593 ~ 1595 年：天守築造

「天守を建て、惣堀を浚へ、幅を広くし、岸を高くして石垣を築き、渡り矢倉を造る。…三の曲輪の大城戸五ヶ所共に門楼を造る…」(『信府統記』より)

「此時天守並に門々修復あり…」(『信府統記』より)

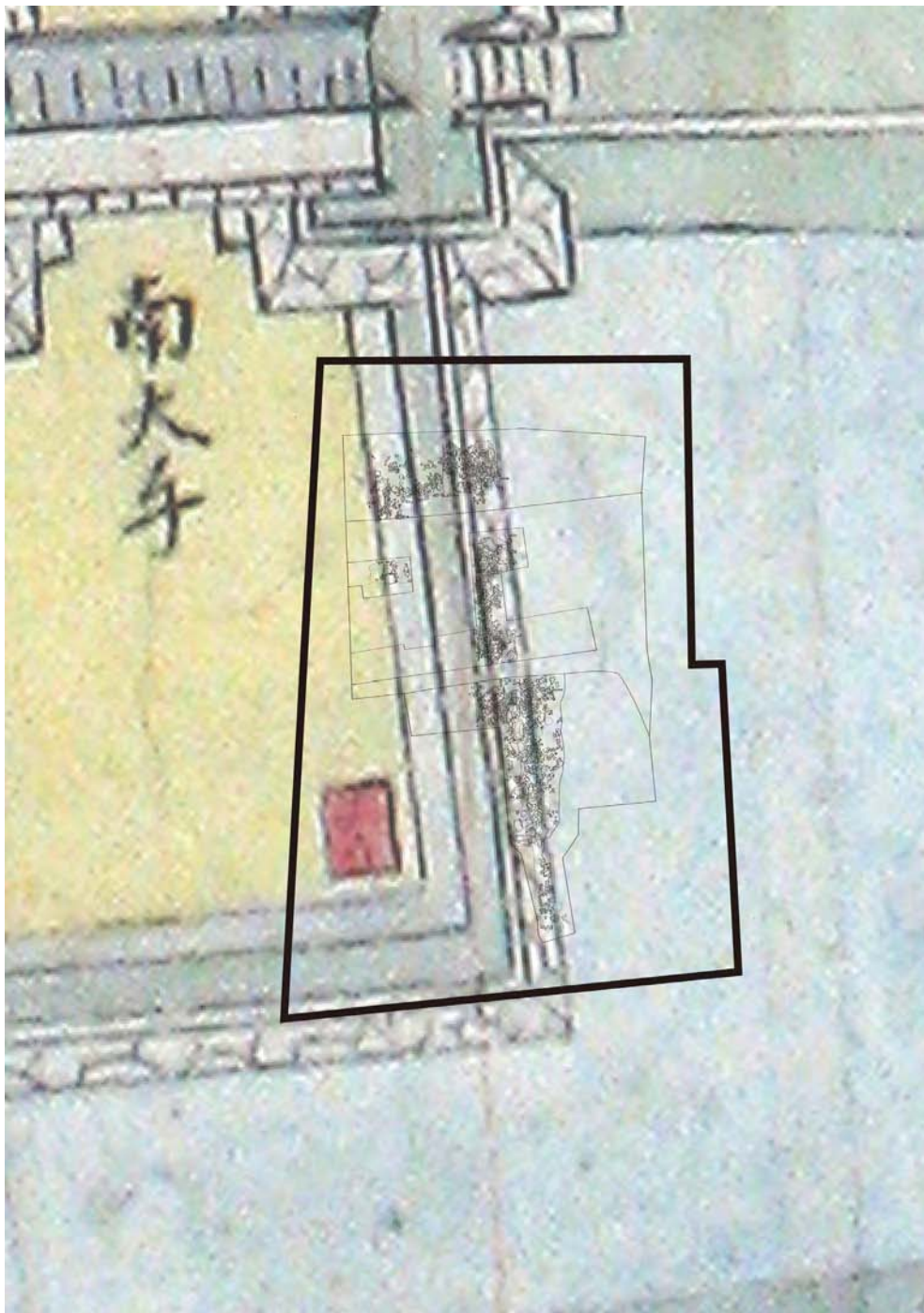
1634 年：この頃、月見櫓・辰巳付櫓・八千俵蔵建つ。

1722 年：信府統記編纂始まる。完成は 1724 年。



写真9 出土家紋瓦





上の図は、享保十三年の絵図に今回の調査で発見・確認した遺構図を貼り合せたものです。絵図と縮尺を合わせると、石垣と石列の幅もだいたい合ってきます。

大手門がのる門台も、石垣の構築時期の特徴がよく表れる隅角部も確認できず、調査地の範囲外にあると考えられます。

また、今回の調査では石垣の構築年代を明らかにできるような土器や陶磁器は少なく、出土遺物から時代を考えていくような資料には恵まれませんでした。今後は、松本城の他の場所の石垣と比べて共通点や相違点を見つけ出していくことで、石垣を含め大手門枳形の築造・改修の時期を考えていく必要があります。

講演資料 松本城の調査とその意義・課題 ―城下町もふくめて―

松本城管理事務所 後藤 芳孝

はじめに

近年松本城下町の発掘調査も数が増え、今回は松本の手門跡の発掘調査について報告もあつたりして関心が高まっていることから、お城や城下町関連の話をするように要請がありました。三の丸内が松本城ですのでそこと、さらに城下町全体に関した話をしたいと思います。

1 松本の城下町の発掘調査

(1) 近世城下町成立以前の遺跡もある

家屋が立ち並んでいるため遺物が発見されることが少なく、古くから知られている遺跡は少ない。近世の城下町の発掘の下層で新たに見つかっている。

縄文時代：土器が田町遺跡や丸の内遺跡で見つかっている

弥生時代：土器や石器が片端や六九や岡の宮で見つかっている

古墳時代：村が岡の宮や宮村町や六九や堂町で見つかっている

奈良・平安時代：土器が徒士町や堂町や岡の宮の北で見つかっている

鎌倉時代：建物あとが伊勢町で見つかっている

室町時代：大手で見つかっている

このように、松本の城下町の下層には、かつて人が住んでいた痕跡があり、城下町が造られた以前の状況も今後城下町の発掘が進むとそれにとまってより明らかになっていくだろう。

城下町内にある遺跡名（松本市文化財調査報告No185『東町』2006）

①堂町遺跡 ②田町遺跡 ③岡の宮遺跡 ④片端遺跡 ⑤丸の内遺跡

⑥大名町遺跡 ⑦土井尻遺跡 ⑧伊勢町遺跡 ⑨本町南遺跡 ⑩天神西遺跡

(2) 松本城近辺の歴史

南北朝時代に小笠原氏は井川に入りそこを館とした。小笠原氏の勢力の拡大に伴って拠点になったのは井川近辺である。

深志には小笠原氏の一族の坂西氏が入って館を構えていたといわれるが、その跡は明確になっていない。坂西氏は深志介という国衙の役職を掌握し、一定の勢力を持ったと思われる。一般にいわれていることは、現在の松本城の近辺に館があつたということである。坂西氏の館の周辺には武士や他の人が生活していた家屋があつたであろう。

一五〇〇年代の初期に、深志には島立氏が入り深志城を築いたということも『信府統記』に記されるところで、

永正元甲子年小島深志ノ城ヲコヽニ移セリ、其頃ハ猶元ノ名ニ順テ深志ノ城ト云テ、本城二ノ曲輪ハカリナリ、右近後ニ剃髪シテ万歳ト号ス、(中略) 永正十四丁丑年七月廿八日ニ卒ス、法名寿永万歳居士ト云フ、(中略) 万歳ノ嫡

子島立七蔵相続シテ城主タリ、父万歳居士ヲ神ト祝ヒ、当城ノ鎮守トナス（中略）若宮ノ内北ノ社稻荷大明神、南ハ万歳ノ祠ナリ（後略）

とある。けれども、坂西にしても島立にしてもその跡が若宮以外まったく発見されておらず、改修ないし破壊されて現在の松本城がその上に造られたのか、別の場所からその跡がでてくるのか、これからの調査・発見にかかる。

武田信玄が小笠原長時を追って深志に入り、深志城を改修して北信濃への侵攻する拠点としたこともよく知られるところで、信玄の統治は約30年間に及んだ。この間の城普請などの実態は明らかでないが、城郭の整備は進んだと思われる。現在の松本城の馬出の形は武田氏の系統をひくといわれていたり、三の丸内の発掘でV字形の堀が見つかったりするが、これらが武田時代のものかどうかは今後の発掘調査によって明らかになっていくであろう。

（２）文献史料に見える小笠原・石川・戸田・堀田・水野時代の城郭と城下町整備

城下町の建設は水野氏時代まで連綿と続く。『信府統記』と「大守累年記」（河辺文書）によって各時代の様子を見る。文献上では、中心になる史料はこれらしかなく、この史料の語ることが事実かどうかは発掘による確かめが大事になる。

西暦	城主	城	城下町
1582 ～ 1590	小笠原貞慶	今の宿城の地割 三ノ曲輪縄張り 堀を掘り土手を築き、四方に5ヶ所の大城戸を設け、南門を追手と定める 小路を割り、土屋敷を建てる。	本町へ町屋移転、 中町・東町の町割り、 安原町・伊勢町と改名、 枝町を地割、 和泉町・横田町・飯田町・小池町・宮村町・馬喰町などの名定まる 浄林寺・生安寺・瑞松寺移転 本立寺を上土に移転
1590 ～ 1592	石川数正	城普請を催す 天守・総堀、侍町屋敷 二ノ曲輪に慰み所	正行寺を女鳥羽川北へ移転
1593 ～ 1613	石川康長	天守、 総堀幅広く深く 石垣、 渡り櫓、黒門・太鼓門の門櫓、塀掛け直し、 三ノ曲輪の大城戸五ヶ所に門櫓、 櫓・総塀大方建つ、 屋形修造、土屋敷	郭外に土屋敷、 宮村に徒屋敷、 極楽寺移転 正行寺を下横田へ移転

1613 ～ 1615	小笠原秀政		鎌田から天神移転 天神馬場 伊勢町・飯田町・小池町・ 宮村町・和泉町・安原町・ 横田町・山家小路、家建ち 並ぶ
1617 ～ 1632	戸田康長		安原の西に歩行屋敷、北に 足軽町 安楽寺を現在地へ移す
1633 ～ 1638	松平直政	天守、門修復 渡り櫓（多門櫓）造る 城米蔵二軒 六九馬屋つくる	新町・片端町に土屋敷 田町の東側に与力同心屋 敷
1638 ～ 1642	堀田正盛	本城北の堀・石垣破損	本立寺を上土から現在地 へ移転、跡へ蔵を建設
1642 ～ 1647	水野忠清	本城北の堀・石垣修復 二の丸辰巳櫓普請、二重櫓 新築	安原足軽町できる
1647 ～ 1668	水野忠職		西堀町に歩行町 北馬場、小河町（のち鷹匠 町） 富坂町・餌差町
1668 ～ 1713	水野忠直	北不明門焼失、復旧 本丸西南の櫓二階できる 四方門しゃちほこできる	玄向寺 めとうだ川を女鳥羽川に

（３）松本城にかんする遺跡の特徴

堀 土塁 石垣 （他にはない城郭特有のもの）
瓦を伴う大型建物（天守 櫓 門 武家住宅など） 土堀
井戸 水路 手を加えられた土地（削平、掘削・埋立、築山、池など）
境区画（道路・敷地など）

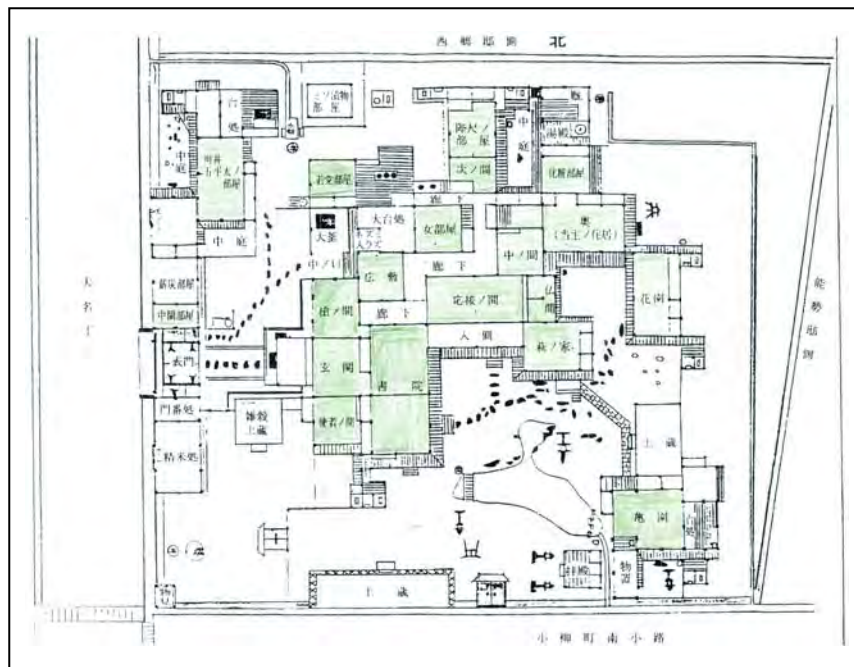
①発掘された遺跡の例（報告書があるもの スライドで一部紹介）

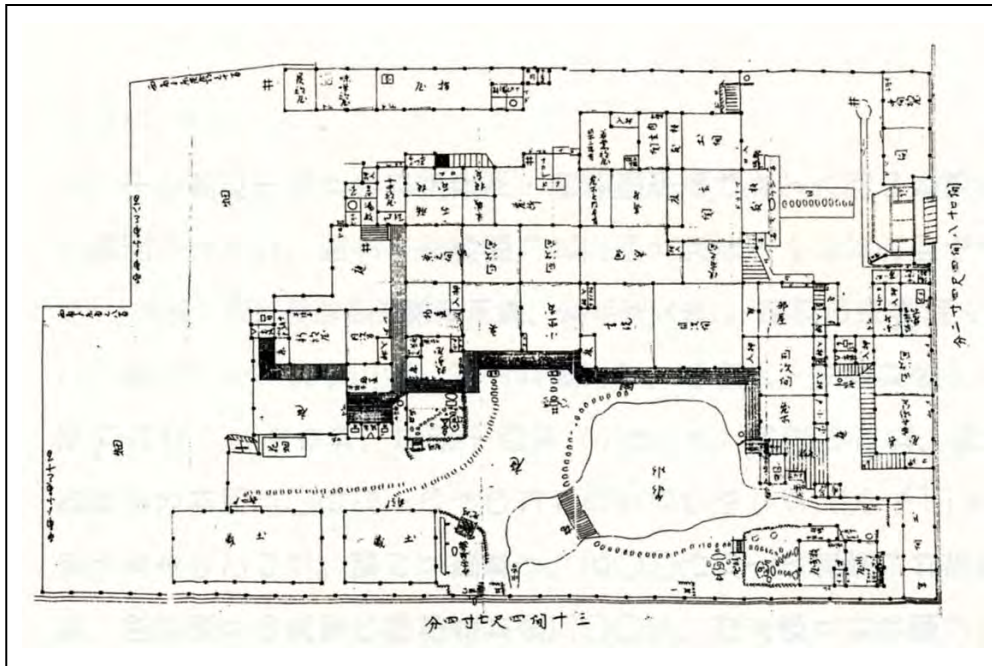
- ア 堀の発掘
 - 北外堀
 - 西馬出
 - 東総堀
- イ 土塁
 - 西総堀土塁跡
- ウ 石垣
 - 太鼓門枳形
 - 黒門枳形
- エ 大型建物

- 二の丸御殿跡
- 南隅櫓跡
- 黒門二の門
- 大手駐車場三の丸遺跡
- 太鼓門
- 二の丸東北隅櫓跡
- オ 土堀
 - 二の丸御殿跡土堀
- カ 井戸
 - 地蔵清水
- キ 水路
- ク 手を加えられた土地
 - 黒門枡形
 - 大手駐車場三の丸遺跡
 - 西総堀土墨跡
- ケ 境界

(4) 江戸時代の三の丸

①三の丸内の屋敷の配置がわかる絵図





(『松本市史』歴史編 近世)

②三の丸内の大火

三の丸が火災にあった記録は、詳細にわかっているわけではないが、昭和8年版の『松本市史』上によれば、

享保12年閏正月元日 本丸御殿炎上

(1727)

寛延2年5月15日 三の丸弥勒院(現在の松本神社東)炎上

(1749)

安永5年12月17日 中町綿屋から出火した火が三の丸内へ入る

(1776)

六九馬屋・町役所・郡役所・御預役所。大手橋焼け落ち。大名町・土井尻・柳町・地藏清水。二の丸へ飛び火し蔵2棟焼く。飛び火により弥勒院と北馬場数軒を焼く。高堀・矢倉など城内八丁四方を焦土と化す。殿中夫人女中子供蟻ヶ崎百瀬方へ避難。

大手門・東門危うきところ防ぎ止める。

焼失城内屋敷57軒。この火災後道幅を広げ本町5間、中町4間にした。

慶応元年2月11日

(1865)

博労町山城屋から出火した火が広がり、城内へも所々飛び火したが消し止めた。

燃えた跡には焦土が残る。それを均して新しい建物が建てられる。

③城下町の洪水の概要

正徳 5 (1715) 薄川決壊 博労町始め川南浸水

享保13 (1728) 女鳥羽川は堀と合水し一面海 薄川決壊 川南浸水

享保16 (1731) 女鳥羽川決壊、堀・町一面泥海 薄川・長沢川決壊

元文 3 (1738) 諸川・薄川決壊 市中一面浸水

寛保 2 (1742)	女鳥羽川決壊川北東側浸水 薄川決壊宮村・小池町
延享 4 (1747)	女鳥羽川決壊川北東部浸水
安永 8 (1779)	女鳥羽川と縄手の堀が一つになる 薄川決壊宮村・小池・飯田町浸水
天明 9 (1789)	女鳥羽川決壊川北東部浸水 薄川決壊川南浸水
寛政10 (1798)	大満水 薄川決壊川南浸水
文化 元 (1804)	連日大雨 女鳥羽・薄川決壊
天保13 (1842)	女鳥羽・薄川決壊 市中残らず浸水
嘉永 3 (1850)	女鳥羽川決壊川北東部浸水 薄川決壊
嘉永 4 (1851)	薄川決壊
安政 6 (1859)	女鳥羽川決壊川北東部浸水
万延 元 (1860)	長雨 女鳥羽川決壊 水は堀へ
慶応 元 (1865)	女鳥羽川決壊 縄手の松が南堀へ落ちる 薄川決壊川南浸水
明治 元 (1868)	女鳥羽川決壊南岸へあふれる
明治15 (1882)	薄川決壊 川南一円浸水
明治21 (1888)	大雨 女鳥羽川決壊 片端の堀へ水入る 堀つたいに西堀まで浸水 薄川決壊 開智の校舎の一部破損

(昭和8年版『松本市史』上巻より抜粋)

これらの洪水で運ばれた土砂が堆積した層も場所によっては出てくる可能性がある。

2 江戸時代の終焉と新たな町の発展

(1) 武家住宅地の荒廃

江戸時代が終わり明治維新になって大きく世の中が変わった。今まで制限があった三の丸とその外の垣根であった堀が埋まり土塁が取りのぞかれていった。藩庁は取り壊されたり転用されたりし武家住宅は荒廃していった。その様子を木下尚江『墓場』から見る。

(前略) 明治九年に僕は初めて小学校へ入った。学校への順路は昔の丸の内を通るのである。地蔵清水と云ふ元の家老町の角に、僕は一つの化物屋敷を見た。周囲の塀は疾うに無くて、只だ裏門の名残らしきものが、僅に其の影を留めて居た。広大な地内一面に、腰を過ぐるばかりの雑草が生い茂つて、所々に昔の庭木らしいものが頭を出して居る。其の草原の真中に軒の傾いた一つの廃屋があつた。其れは元の邸宅の残余なので、多分是れだけを残して売払つて仕舞つたものであろう。病人でもあるのか、障子の間から遠く絹夜具の派手な縞柄が見えた。是れが「三左エ門様」の御邸である。僕は祖母や母から「三左エ門様」の威名を聞いて居た。(中略)

僕は小兒心にも権威の頼み難く栄華の空泡に過ぎないことを驚かずには居られなかつた。僕の受持教員が此の三左エ門様の養子であつたが、僕が毎朝弁当を腰にブラ下げて此の化物屋敷の前を通り掛る時、彼の廃屋の裏の方から袴を付けた先生の、草を踏み分けて出て来るのを見た。(中略)

城門の石垣も、濠の土手の大木も、皆惜気なく払い下げられた。貉が火を點もしたので、三つ目の大入道が出たのと言ひ伝へられた土手の大木の、斧で殴ぐられる音を聞いたものは、皆な立ち留つて濠越しに眺めやつた。木の根の音だとのみは何人にも思い諦められなかつたのだ。(後略)

(『木下尚江全集』第四巻)

天白丁の自宅から女鳥羽川沿いの開智学校へ通う途中、地蔵清水を日々通った尚江のみたことを綴っている。明治9年という日時に誤りがなければ、明治4年8月旧藩主戸田光則が東京へ引き上げてからしばらくの間に、急激な士族層の没落と武家屋敷地の変化があったことになる。尚江は開智学校から中学へすすみ、長野県中学校松本支校（中学の校舎は明治10年から現日銀の場所、その後明治18年二の丸内へと移転）を明治19年2月に卒業しているので、その間の記憶も混じるかもしれない。『墓場』刊行は明治41年尚江39歳の時。

（2）新しい建物

新時代に必要とされた新しい建物が建ち始める。

年代	名称
明治4年11月	松本病院を上土に設置
5年1月	筑摩県庁開庁（9年6月焼失）
5月	県病院及び医費を上土に開く
	県学を全久院に開校
7月	松本郵便役所を本町5丁目に開設
6年2月	陸運会社
5月	開智学校を全久院に開校
この年	葵の馬場に牢屋を造る（13年11月火災）
8年1月	松本三等郵便局として本町1丁目へ移転
3月	開産社が六九に開社
	劇場松本座が正行寺小路に建築
5月	第1警察出張所を中町に置く。10月東町へ移転
9年4月	開智学校新築開校
10月	長野県警察第5出張所が大名町に新築開庁（10年8月松本警察署に改称）
12月	松本裁判所が二の丸へ開庁（11年6月竣工）
10年7月	師範学校が地蔵清水へ落成
8月	第14国立銀行が本町4丁目に開業（のちに2丁目へ移る）
11年10月	横田遊郭開業（13年4月焼ける5月再開）
12月	松本警察署が大名町に新築開庁
12年1月	東筑摩郡役所を六九の旧預役所に置く
10月	神道事務局並びに四柱神社開設遷座
	安立寺新設
13年5月	松本農事協会が本丸を植物園として借りる
6月	電信分局が千歳橋脇に新設
14年1月	商法会議所創設
5月	松本銀行創設開業
この年	監獄を三の丸内旧作事場址へ建築
15年	本願寺を大名町に建築（許可は13年6月 堀の埋め立て）
18年11月	松本中学校校舎が二の丸に新築

19年 2月	鍛冶町より出火、北深志を焼く	19年の大火
20年 8月	甲信鉄道会社設立	
この年	松本大林区署（営林署）を柳町に置く	
21年 1月	極楽寺から出火、大火となって町の中央南北を焼く（警察署・郵便局・神道・本願寺・師範学校など焼失）	21年の大火
4月	東筑摩高等小学校を地蔵清水に開校	
9月	松本警察署新築開庁	
22年 4月	松本町となる	
5月	松本郵便電信局再築落成	
23年 3月	本町5丁目から出火、大名町へ飛び火、75戸焼失	
6月	片倉製糸場が清水に開業	

（『松本市史』下巻P820～）

これらの建物は、現在残っていないが、土中にその痕跡を残しているものもあるだろう。

（3）堀の埋め立て

堀は不必要なものになり、次第に埋め立てられていった。

①埋め立ての状況（概念図）



（『定本国宝松本城』170頁）

② 埋め立て時期の根拠

場 所	年次（『定本国宝』松本城169頁）	出 典
南総堀 大手門西側	明治9～14年	『松本市史』下209頁 831頁 903頁 本願寺建築許可は13年 完成15年 『信府統記追補』 明治13年4月大手門西 側の堀をうめて本願寺別 院新築地となす 9年の根拠は下209頁
大手門東側 （神道から上	明治11～15年	『松本市史』下209頁 872頁

	土まで)		11年神社建設許可 13年神殿創建 ※15年の根拠は？
東総堀	上土西側	明治15～20年	『松本市史』下210頁
	東門北	明治23年	『松本市史』下210頁
	東門馬出堀	明治29年（女鳥羽川洪水）	『松本市史』下211頁
	深志橋		木橋 明治22年 明治44年架け替え 『松本市史』下210頁 下212頁
西総堀	西堀側	大正10（市営住宅建設） 大正14年	『松本市史』下214頁 上記では南半分 下216頁 上記では北半分は大正14年 下577頁
	西不明門付近	大正14年	
北総堀	中央部	昭和7年（一部市営プール建設）	
外堀	二の丸御殿東	明治11年頃（裁判所正面土橋設置 昭和59年復元）	『松本市史』下984頁 上記では明治10年とする
	北門馬出	明治14年頃（埋立と道路設置）	南北深志町絵図が根拠であるがどの図か不確定 管理事務所所蔵の明治12年ころとする絵図では道が完成している
	黒門東（太鼓門から本丸へ）	明治35年（松本中学敷地拡張 昭和30年復元）	『松本市史』下211頁 下984頁
	南・西（二の丸町会部分）	大正8年	『創業百三十年のあゆみ』（斉産社 21頁）
	二の丸大名町口	明治24・25年（市史）とあるが、明治30年代かもしれない	『松本市史』下210頁 下984頁 つり橋の架け替えの際に埋め立てた

堀の石垣は積み替えなどにより発掘調査が行われている。しかし、堀そのものについて全面を発掘調査することは今まで行われていない。今回全面ではなかったが、大手門の東の総堀が調査され、さらに、今後外堀の復元に伴い行われる発掘調査により、松本城の堀の特徴が明らかにされていくことになる。堀の形や構造はどのようになっていたか。水際の土塁や石垣はどうなっていたか。水の確保はどうされていたか。明治以降埋

められた時は何をつかってどう埋めたか。などなど

馬出の構造は、門の前に三日月方の土盛りをし、その前に堀を築くという形をとって、武田流の馬出を引き継いでいるといわれてきた。この形を今にとどめるのが北門の北である。最近出る本では、ある研究者がこの形の馬出は徳川時代にも造られていて松平直政が築いたものではないかと書いている。この場所の発掘がなされると、武田時代から小笠原・石川時代なのか松平直政時代なのかといった松本城の建設時期にもかかわる大きな発見がなされる可能性がある。

(3) 明治の大火

明治19年と21年と45年の3回、大きな火事があった。

①明治19年の火事

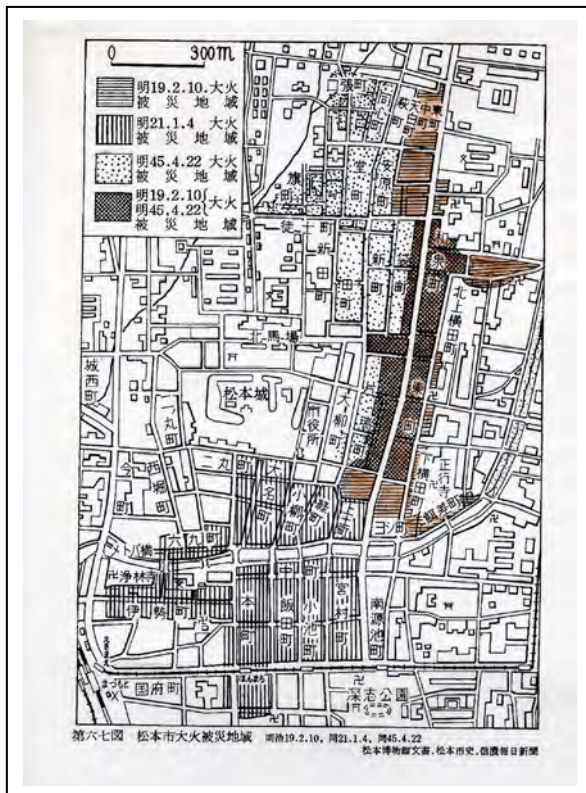
山辺小路付近から出火し、上下横田町・東町・和泉町・出居番・捨堀・安原町・天白丁・東ノ丁・上下下町などが焼失。

②明治21年の火事

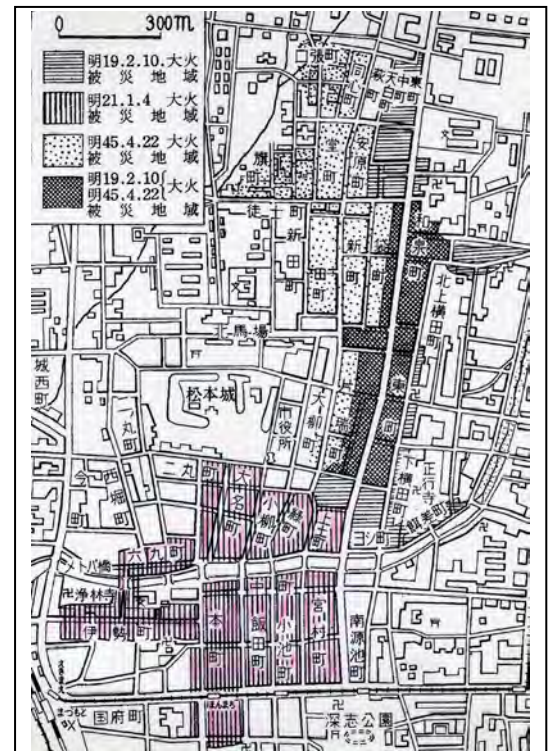
本町5丁目極楽寺付近から出火。本町・中町・飯田町・小池町・宮村町・天神小路・鍋屋小路・生安寺小路、伊勢町は鍛冶小路以東、六九・大名町・土井尻・辰巳町・緑町・小柳町を焼く。飛び火で五社、警察署・郵便局・神道・中学校・本願寺・榊座などを焼失。縄手の松も焼く。

③明治45年の火事

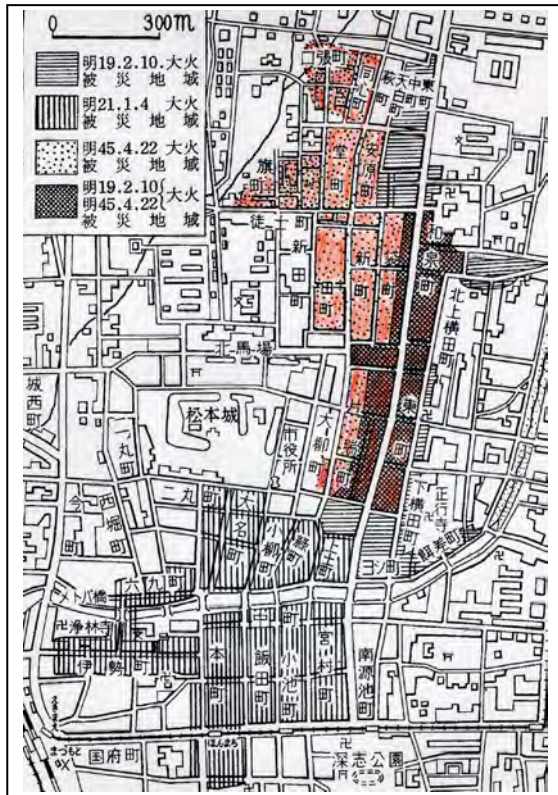
裏町正行寺付近から出火し、裏町・東町・出居番・片端・和泉町・袋町・新町・田町・安原町・堂町・西町・同心町・口張町・旗町の全部ないし一部を焼く。花柳病院、師範寄宿舎を焼く。



明治19年大火焼失範囲



明治21年大火焼失範囲



明治45年大火焼失範囲

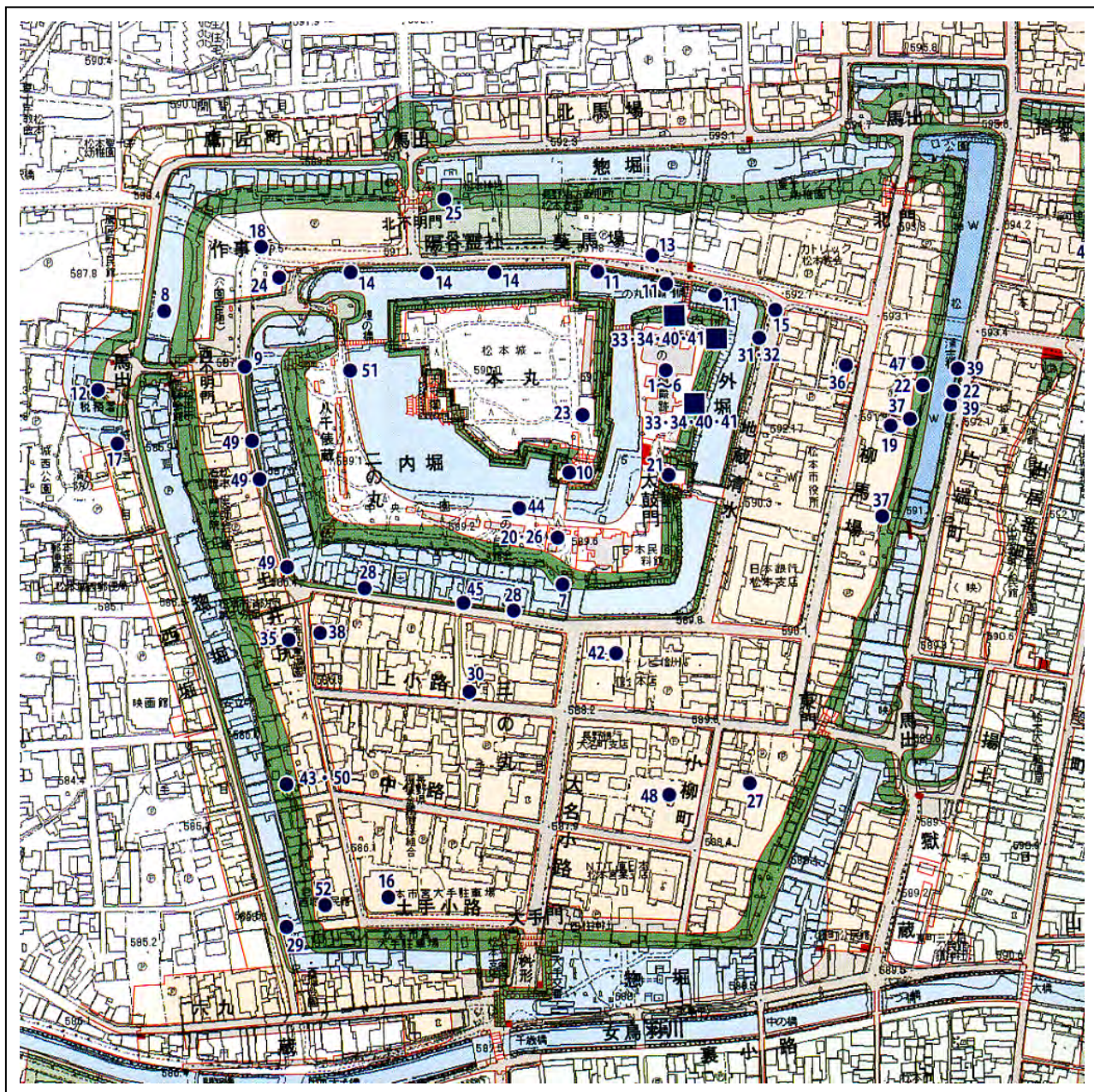
(『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』
第3巻現代上)

これらの大火によって、江戸時代からの武家屋敷や町屋の建物の多くを失った。焼土を片づけ、その上に新しい建物を造って現在に至っている。焼跡をどう始末したか。焼土や家屋の焼け残りが地中に有る箇所も出てくるだろう。

3 松本城内に残る遺構と発掘調査

(1) 城下町全体 (三の丸内は別に掲載。ポイントは該当町名の近くに記したもので発掘地点を示すものではない。数字は調査地点数を示す)

(2) 城内



『史跡松本城 西総堀土塁跡』松本市文化財調査報告NO205 2010)

(3) 城下町及び城内の発掘調査の傾向

年代	調査地点		調査理由	報告書の有無
	郭内	城下町		
1979 ～84	二の丸御殿		史跡公園整備	○
1986	二の丸南隅櫓		緊急（電話ボックス）	○
1987 ～88	本丸黒門		史跡復元	○

1988	北外堀		緊急（市道拡充）	○
	西馬出跡		緊急（税務署）	○
1989	葵馬場		緊急（市道拡充）	×
1991	北外堀		緊急（市道拡充）	×
	地藏清水井戸		緊急（外堀土塁改修）	○
	土井尻		緊急（駐車場）	△
	西馬出跡		緊急（消防署）	×
	作事所跡		緊急（市道拡充）	×
	柳町		緊急（市庁舎）	×
	二の丸跡		緊急（イベント施設）	×
	太鼓門		史跡石垣改修	○
1992	本丸跡		緊急（管理事務所）	×
	作事所跡		緊急（公衆トイレ）	×
	総堀土塁跡		緊急（市道拡充）	×
	二の丸跡		緊急（イベント施設）	×
1994 ～01		伊勢町	緊急（土地区画整理）	○
1995		全久院	緊急（土地区画整理）	○
1996		西町	緊急（民間開発）	×
	南外堀跡		確認調査	×
1996 ～99		本町	緊急（土地区画整理）	○
	小柳町		緊急（民間開発）	×
1998 ～99		中町	緊急（民間開発）	○
		飯田町	緊急（民間開発）	×
1999		岡宮	緊急（民間開発）	○
	総堀土塁跡	西堀	緊急（土地区画整理）	×
			緊急（市道拡充）	×
1999 ～01		六九	緊急（市道拡充）	×
			緊急（市街地再開発）	○
2000 ～01	土井尻・大名町		緊急（公民館）	×
2001		全久院	緊急（時計博物館）	×
		下横田町	緊急（民間開発）	×
	北外堀		石垣復元	×
2002		中町	緊急（民間開発）	×
		博労町	緊急（民間開発）	×
		片端	緊急（民間開発）	×
		東町	緊急（民間開発）	×
2002 ～05	二の丸隅櫓・土塁		史跡整備	○
2003		西堀	緊急（市道拡張）	×
		六九	緊急（民間開発）	×

2004	柳町 総堀跡 土井尻	東町	緊急（民間開発）	×
		本町	緊急（民間開発）	×
			緊急（土地区画整理）	×
			緊急（民間開発）	×
			史跡整備試掘	○
			緊急（民間開発）	×
		宮村町	緊急（民間開発）	○
		東町	緊急（防災公園）	○
		和泉町	緊急（民間開発）	×
		袋町	緊急（民間開発）	×
2005 05 ～06	総堀跡 大名町	博労町	緊急（民間開発）	×
			史跡整備	○
			緊急（民間開発）	○
		堂町	緊急（民間開発）	×
2006	西総堀土塁 内堀石垣 南外堀 捨堀土塁 西総堀土塁 小柳町	小池町	緊急（民間開発）	○
			史跡整備	○
			史跡整備	×
			史跡整備	×
			重要遺跡確認調査	×
			重要遺跡確認調査	×
2007	西外堀跡	徒士町高橋家	緊急（民間開発）	○
			文化財整備	×
			史跡整備	×
			緊急（民間開発）	○
2008	西総堀土塁跡 内堀石垣 土井尻	飯田町	史跡整備	○
			史跡整備	×
			緊急（民間開発）	×
			緊急（蔵座敷移転）	×
2009 2011	内堀石垣 柳町	中町	史跡整備	×
			緊急（市庁舎関連）	×
11 ～12	大手門枳形	上土	緊急（民間開発）	×
		女鳥羽川護岸	大規模試掘	
			緊急（市街地整備）	

（松本市文化財課埋蔵文化財担当提供資料より作成）

この表から特徴をとらえてみたい。

調査地点では当初は三の丸内の調査がほとんどであるが、1994年から郭内以外の城下町の調査が次第に増えて現在に至っている。城下町の発掘はここ20年あまりの歴史しかない。

調査理由をみると、二の丸・本丸は史跡指定されていることもあって史跡整備からみでの調査が多く、三の丸内になると公的な施設の建築にともなう「緊急」名目の発掘が中心である。城下町では、土地区画整理事業にともなう事前の発掘調査が多く、伊勢町

のように幾年次もかけた大きな発掘調査が行われている。1996年ころから民間開発にともなう「緊急」の発掘が非常に増えてくる。今後もますます増えつづけることであろう。

発掘調査結果の公表については、発掘後報告書が出されているものと出されていないものがある。緊急発掘が多くなるにつれて報告書の公表が遅れているように見受けられる。事業のなかで、報告書の刊行がうたわれ費用が盛られているものは報告書が刊行されるが、そうでないものは後回しになる傾向があるのだろう。

全国的な傾向は、1970年代から城郭の考古学的発掘が増加し、80年代にはその定着をみたという。90年代になるとそれまでの発掘の学問的蓄積を生かした城郭の研究が成果として発表されるようになり、2000年代前半に急速に進展したといわれている。全国的な流れのなかでも、考古学の発掘をもとにした城郭や城下町関係の研究は若い分野である。松本もそれに乗り遅れないで調査の蓄積、発掘担当者の育成、研究の推進などさまざまなことをすすめていく必要があるだろう。

4 意義

- (1) 今まで家が密集していたことで手がついていなかった城下町地域で発掘が行われ、近世の様子だけでなく、その下層にある中世やそれ以前の松本の姿が見えてきたところもでてきている。
- (2) 城郭に特有の石垣・堀・御殿などの当時の姿や、当時の材料や工法などがみえてきている。
- (3) 城下町の武家住宅地や町人住宅地の在り方や、そこに生活をしていた人々の生活の様子がわかってきている。
特に、水を確保し生活につかっていた様子が随所で見つかっている。
- (4) 現在の城下町が形成される以前の町並が見つかっているところもあり、城下町を形成していった過程をみることができる箇所もでてきている。
- (5) 平成7年までの知見は、平成7年発行の『松本市史』歴史編Ⅱ近世に、付録の扱いではあるが「掘り出された城下町」として記述された。発掘調査の結果が歴史叙述のなかにかき入れられ、文献からではわからないより豊かな歴史像を描くことができるようになってきている。

5 今後の課題

(1) 全体的なこと

城下町北部は個人所有地が多く、公的な建造物の建設が少ないためか、今までなかなか発掘調査がされていない。しかし、この地域は昔の武家住宅の地割をよく残しているので、発掘により武家住宅の有り様を探ることができる場所として注目しておく必要がある。

三の丸内については、城郭にかかわる部分と重臣たちの武家住宅地に関する部分の2つの面から見ていく必要がある。

城郭にかかわる部分については後述する。

城下町南部については、現在の町並みが形成されるまでの歴史的な過程を発掘によって確かめるために、より多くの地点での調査の継続とその総合的な考察が必要になるだろう。

城下町には寺院もたくさんあった。廃仏毀釈で廃寺となってなくなった寺院のなかには松本の歴史を解明する上で重要な寺もある。墓地の扱いや宗教上の問題など

難しい点もあるだろうが、これからは調査を検討していく必要があるだろう。

全般的なことで、増える緊急発掘に対応することは勿論であるが、松本城の成立や松本城下町の発展にかかわる重要な地点については、学術発掘を組織して行うことも必要である。

(2) 発掘体制

①組織

城郭の発掘を専門にしてきた人や近世の街の発掘を専門にしてきた人は、そう多くはない。現地で発掘をしながら学んで知識を蓄えていく人が圧倒的に多い。公務員の宿命といえばそれまでだが、ある程度の年限になると異動となってしまう。将来に備えて経験者が若手を育成していくことの重要性を思えば、今後は埋蔵文化財発掘部署のなかに近世城郭・城下町担当の部門を設けていくことも検討していく必要があるだろう。先の3の(3)でみたように全国で近年大いに進んでいる城郭の発掘や研究の傾向に乗り遅れないためにも大事なことである。

②方法

近世の発掘では、絵図や史料といったものが残っていて、発掘の補助資料として使うことができる。今回の大手門の発掘に際しては、発掘担当者と城の城郭整備担当部署や研究室とで、現地について事前の検討がなされた。このようなことはとても有意義なことであり、今後もなされるべきことである。

本年度から松本城管理事務所の中に城郭整備担当という係が設けられた。将来にむけて国宝や史跡関係のことをどのように保護・活用していったらよいかを構想し実施する部署である。これら城内の部署と発掘担当部署また広く松本全体の文化財を扱う部署等の連携は今後より進めていく必要がある。

発掘途上においても専門家が見学に入ることが多く助言もされることがままある。これらのことも踏まえて、発掘の中途にも検討会をもつなどして、発掘の方向性について周知を結集する場をもうけていくようにすることも必要である。

一度発掘された箇所が、再び発掘調査されなすという事はまれである。発掘調査が計画される段階から、考古学・文献史学・建築史学・地質学・地形学・造園学・化学分析学などといった関係者が意見交換や情報提供を行いあい、調査の目的・方法等をより効果的にしていくといったこともおこなっていくべきであろう。

(3) 報告書の刊行

発掘成果は公開されないと生きてこない。凍りつくような寒い冬場も現場で頑張っている発掘担当者を鞭打つことになって心苦しいが、報告を作成することを大事にしたい。

発掘後には現場は埋め戻されてしまうことが多い。のちの者が現場をみようとしても見ることは不可能である。担当した者しか知り得ないことがたくさんある。担当者が数年で異動してしまうと、その知り得た貴重な体験上の情報を持って外に出ていってしまうわけで、ますます報告書に生かすことができにくくなる。

調査報告が作成され公開されることで発掘現場が再び生かされることになるので、素早く刊行できる体制をつくることはできないものだろうか。盛る内容を厳選し「概報」として出すなど、なるべく早くに報告していくようなことは工夫す

る必要がある。

(4) 松本城（三の丸内）に限れば

本丸内の発掘がほとんどなされていない。天守と御殿は一体のものである。本丸御殿がどのようなものであったかを解明することは、現存天守の建築をより明らかにすることにつながる。幸い御殿の絵図も残る。いずれ調査をしなくてはならない。

二の丸御殿の全面発掘は貴重な成果をあげた。二の丸にはほかに古山地御殿・新御殿・隅櫓があった。さらに西側には米蔵や硝煙蔵や茶室や築山があった。それらの調査には手がついていない。

今後の外堀復元の際に行われる堀の発掘調査は、松本城の堀の本格的な調査になる。この発掘で得られる成果は大きなものがあるだろう。

三の丸の武家住宅のなかには屋敷の絵図面が残っている箇所がある。そこを発掘する機会があれば、全面発掘したいものである。他の武家住宅地を発掘するときの指標ができるであろう。

おわりに

松本の町の地下には、人々がどのようにそれぞれの時代を生きてきたかという情報がたくさん詰まっている。

どうやって住む場所をつくってきたか、町づくりはどうしてきたか、そしてそこでどのように暮らしてきたか、時には力を合わせて災害をたくましく乗り越え、時代の大波に翻弄されつつも、松本らしい新しい生活の場を造りだしてきた人々のたくましい智恵が詰まっている。

それらをできるかぎり明らかにし、先人の英知を学びとって、それを将来に伝えていくことは、現在に生きる私たちの務めである。

資料：『信府統記』と「大守累年記」（河辺文書）による城下町の形成過程

◎ 『信府統記』

○小笠原貞慶の項

其後深志ヲ改メテ松本ノ城ト号シ、大ニ普請ヲ企テ、
天正十三^酉年ヨリ今ノ宿城地割シテ、同十五^亥年マテ
ニ、市辻・泥町辺ノ町屋残ラズ本町江引移シ、東町・中
町ヲ割リ、麻葉町ヲ安原町ト改メ、西口ヲ伊勢町ト名
ツケ、通り筋ヲ定メ、家ヲ建続ケ、浄林寺^{浄土宗ナリ}ヲ林村
ヨリ伊勢町ヘ引移シ、生安寺^{浄土宗ナリ}ヲ泥町ヨリ本町江移
シ、瑞松寺ハ今ノ飯田町ニアリシヲ宮村ニ移ス、<sup>瑞松寺ハ由緒
アル寺ナレ共、長時浪人ノ時償リ給ノ所以アルガ故ニ、一旦没所
アリテ、翌年訴訟ニ任セ、今ノ所ニ地ヲ賜リ、寺ヲ建ツト云フ</sup>枝町ヲモ
地割アリ、和泉町・横田町・飯田町・小池町・宮村町・馬
口^{喰カ}旁町等ノ名ハ定リケレトモ、家居ハ村々ノ如クニ
テ、町並軒端ハ未^{イマダ}ツラナラザリシト云フ、三ノ曲輪繩
張シテ、塹ヲホリ土手ヲ築キ、四方ニ五ヶ所ノ大城戸
ヲ構ヘ、南門ヲ追手ト定メ、小路ヲ割リ、土屋鋪ヲ建
テ泥町ノ跡ヲ柳町ト号ス、<sup>泥町ノ時柳ノ木、多然レ共、
クアリシ故トカヤ</sup>家居
ハ未ダ立続カサリシト云フ、

◎ 「大守累年記」

「町割繩張有、町々名附本町・中町・伊勢町・飯田町・
小池町・宮村町・東町・和泉町・安原町・横田町 家居村々
ニ有、追々家並出来候」

○石川数正の項

康昌当城二ノ曲輪ノ内ニ慰ミ所ヲ作ル、
<sup>箇三寺ト号ス、今古
山寺ト云、是ナリ</sup>城普請ヲ催ト云ヘトモ、未タ成ラズ、

「当城二ノ郭之内ニ慰所ヲ作ル、箇三寺ト云、今
古山地也、持世前後三年、此代、天守四方囲惣堀
侍町家敷出来ル、菩提所正行寺栗林村ヨリ追手先
女とうだ川之北ニ引移ス、其後今ノ所ヘ子息玄蕃
頭三長代普請有移ス」

○石川康長の項

「此代、二ノ丸太鼓門出来ル、宮村ヨリ西ニ長百五間之馬場出来ル、城四方ニ五ヶ所之大門戸ヲ造ル、城普請段々出来ル、町ニ家並不続ニ付、材木等町々江以書付朱印嶋々山山家山ニ而被下置候、其町家立直ニ付、山家山材木六百本為切可申候、朱印にて役人エ被下置候、宮村辺ニ歩行屋敷出来ル、栗林村ヨリ追手先女統多川ヨリ南エ極楽寺ヲ移ス」

父康昌ノ企テル城普請ヲ継、天守ヲ建、惣堀ヲサラへ、幅ヲ広クシ、岸ノ高クシテ石垣ヲ築キ、渡リ矢倉ヲ造ル、但シ、一説ニ渡リ橋ハ是ヨリ後、松平出羽守城主ノ時新タニ造ルトモ云ヒ伝フ、黒門・太鼓門ノ門楼ヲ立、屏ヲカケ直シ、三ノ曲輪ノ大城戸五ヶ所共ニ門楼ヲ造ル、其外矢庫ヤクラ々々惣屏大方建ツ、城内ノ屋形修造アリ、郭内ノ土屋鋪ヲ建テ続ケ、郭外ニモ土屋鋪ヲ割ル、片端ナド此時出来ルト云フ亦枝町ノ家ヲツ、ケ、並ヲ能シ、宮村ノ辺ニ歩行士ノ屋鋪ヲ造ル、栗林ニアリシ極楽寺ヲ南門ノ外めとうだ川ノ南端、本町西ケ輪ノ裏ニ移ス、其比ヨリ川端ニハ給人屋鋪二三軒アリ、今ノ同心町ヨリ春了寺山門ノ辺マテ極楽寺ノ寺地ナリ、後慶安年中焼失シテヨリ、今ノ所ヘ地代ヘナリ、都テ光長当城ニアルコト二十一年ノ間、城普請及ヒ土屋鋪・寺院・町屋ニ至ルマテ、分領ニ過タル事共ニテ、百姓人夫ヲ勞シ、或ハ山林ノ木竹ヲ伐リ取り、或ハ債債ナクシテ民家ヲ壊チ取テ普請ノ用トナスノ類、勝ゲテ計ガタシ、

○小笠原秀政の項

「此代、伊勢町・飯田町・小池町・宮村町・和泉町・安原町・横田町・山家小路、町々家並建双（注・ナラブ）、然共明地数多有、馬喰町出来ル、町々明屋敷之分領主ヨリ家普請致家来住居」
「慶長十九甲寅年京都北野天神宮、宮村大明神社内長澤辺エ有勸請」

是ヨリ前、天正年中父貞慶当城主ノ時、城下枝町ノ割リ名ヲ定メラレシカ共、家ハツゞカズ村々ニアリシ処ニ、当時ハ軒端立チツラナリ、繁昌昔ニ超ケルトナリ、慶長十九甲寅年秋、鎌田村ヨリ天神ノ社ヲ宮村明神ノ社内ニ勸請、明神ノ社壇ノ北ニ立テリ、前ニ馬場ヲ設ケテ、天神馬場ト号ス、京北野右近ノ馬場ニ準ヘシトカヤ、

○戸田康長の項

「安原町西ニ步行屋敷ヲ建ル、北足輕町ヲ立ル、安原山安樂寺觀音堂トモニ今ノ步行町南輪ニ有、近頃迄觀音堂護摩堂ノ跡トテ明地在シ也、此觀音堂小笠原氏守本尊也」

康長当城ニ移テ、安原町

ノ西ニ步行士屋鋪ヲ建ル、同所ノ北ニ足輕町ヲ立ル、是ヨリ前、安原山安樂寺觀音堂トモニ、今ノ步行町ノ南ケ輪ノ辺ニアリシト云フ、近キ比マテ觀音堂護摩堂ノ跡トテアキ地アリシナリ、安樂寺ヲ引移セルコト此時ニヤ、其義ハ健ニ知レズ、今ノ觀音堂ノ地ハ、当城ノ丑寅ニ当ルガ故、國家護持ノタメ、此所ニ安置セラル、此觀音ハ小笠原氏ノ守り本尊ナリ、其比寺地ハ定リケレ共、普請ニ後年ニ至テ出来シケルト云ヒ伝フ、此所請ニ此觀音堂ハ松本ノ城主代々修覆地トシテ祈願所トセリ、

○松平直政の項

「此代、天守門々修覆有、本城東ケ輪渡リ櫓ハ此時出来シタリ、南門之外女統多、川之北ニ厩ヲ造ル、是ヲ外馬屋ト唱云、又六九厩トモ云、五十四匹ナルカユエナリ、今ノ新町・片端町士屋敷ヲ建ル、田町東ケ輪ニ与力同心屋敷ヲ建ル、西ニ田エ出ル小路有」
「直政代、八千俵藏建ル」

此時天守並ニ門々修覆アリ、

本城ノ東ケ輪渡リ櫓ハ、此時出来タルトモ云伝ヘリ、此二

ノ曲輪ノ内西ノ方ニ城米倉ニ軒ヲ建ル、八千俵藏ト云ナリ、南門

ノ外川端ニ厩ヲ造ル、是ヲ外馬屋ト云、又六九馬屋トモ云、五十四疋立ナルガ故ナリ、是ヨリ此辺ヲ六九ト称来レリ、

今ノ新町片端等士屋鋪ヲ建ツ、田町ノ東ケ輪ニ与力同

心ノ屋鋪ヲ立ル、其時ハ今ノ田町通りハ与力同心屋敷

ノ裏ニテ、東ノ方ニ小路アリ、西ニハ田江出ル道アリテ、入口ニ木戸アリシトナリ、

○堀田正盛の項

「上土ニ土蔵ヲ建ル、其前上ケ土ニ日蓮宗本立寺有、跡エ蔵建ル」

蔵ヲ建ル、

其前上ケ土ニ日蓮宗ノ本立寺アリシヲ、今ノ所ヘ引移ス、本立寺ハ往古出川町ニ草庵アリ、順蔵坊ト云フ所化居住スルノ時、島

立右近今ノ地藏清水ノ辺ヘ移シテ、後小笠原貞慶三ノ曲輪ヲ築ノ節、上ゲ土ヘ移シ、其後今ノ所ニ移ス、身延山十七代目日新上人ノ開基ナリト云フ

此時上ゲ土

○水野忠清の項

「此代、今三寺（註…古山地）矢倉、安原足輕町出来ル」

是ヨリ前キ正盛ノ時、本城北

ケ輪ノ屏石垣破損シケルニ依テ、早速修覆アリ、二ノ曲輪辰巳ノ隅ノ櫓破壊シテ、タ、ミテ古材木等ハ外ニ積置テ渡シ給フニヨリテ、御普請アリ、此矢倉ノ下ニ古ヨリ冷水涌出ルガ故ニ、材木ヲ埋メテ地形ヲ堅メ、井ケ輪ヲフセタリ、石垣ヲ三方ヨリ築キ、西ノ方ヨリ中ヲアケテ井戸アルナリ、俗ニ此井水ヲテ、ノマガリト云伝フ、二重櫓新ニ建テ直ル、矢倉ノ高サ、大サ等ハ別卷ニ載ル、故ニ略ス、

○水野忠職の項

「西堀町御歩行町北馬場出来ル、西二小河町出来ル後鷹匠町ト云、山家ヨリ入口川原町ト云、又富坂町ト云、是ハ富坂武右衛門居住ノ町故名トス、後餌差拾人余居住ニ付餌差町ト名附ル、後東町番所エ勤ル町同心居住」

○水野忠直の項

「此代、女鳥羽玄向寺建立、寺ハ昔ヨリ清光寺ト寺号有、春了寺末寺ニ成」

「北不明門焼失、夏土用中桐油合羽ヲ日二千、仕舞之節、重門二階エ上仕舞置候合羽内ヨリ出火ニ而、門焼失致候、門出来ル、本丸西南ノ矢倉二階出来ル、四方門シヤチホコ出来ル」

「女鳥羽玄向寺御建立之節、守観音山上ニ堂ヲ建、女鳥羽之瀧ト名付、三筋之瀧出来ル、此流末女統多、川エ落合候故、女統多川ヲ是ヨリ女鳥羽川ト唱ル処ニト被仰出候、以来女鳥羽川也」